



コスモ石油グループ コーポレートレポート2013

CORPORATE REPORT 2013



コスモ石油グループの概要

会社概要

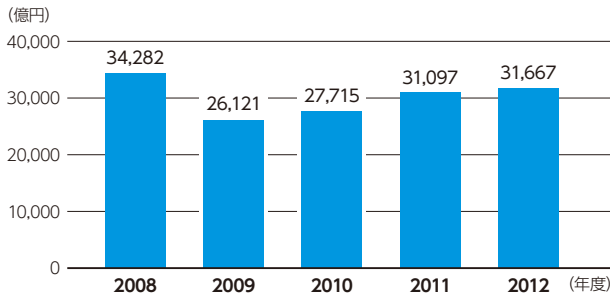
(2013年3月31日現在)

商号 コスモ石油株式会社
 本社所在地 〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号
 電話 03-3798-3211
 発足年月日 1986年(昭和61年)4月1日
 資本金 1,072億4,681万6,126円
 事業内容 石油精製・販売
 社員数 1,899名
 沿革 1986年4月1日 大協石油(株)、丸善石油(株)および両社の精製子会社である旧コスモ石油(株)の3社が合併し、コスモ石油(株)を発足。
 1989年10月1日 アジア石油(株)と合併。

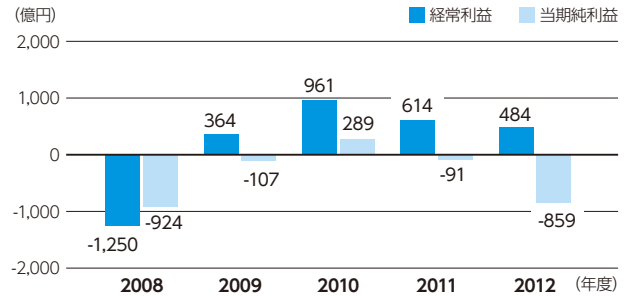
特約店数 244店
 S S 数 3,325カ所(固定式のみ)
 支店 札幌、仙台、東京、関東東南、名古屋、大阪、広島、高松、福岡
 製油所 千葉、四日市、堺、坂出
 油槽所 35カ所(寄託油槽所33カ所を含む)
 海外の拠点 アブダビ(UAE)、北京(中国)、上海(中国)、ドーハ(カタール)、トランス/カリフォルニア州(アメリカ)、ロンドン(イギリス)、シンガポール

財務情報

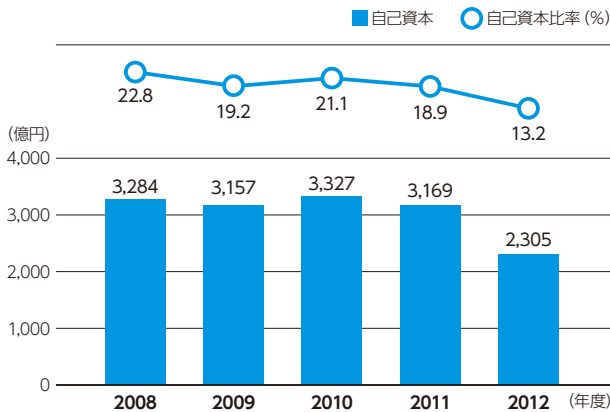
売上高の推移(連結)



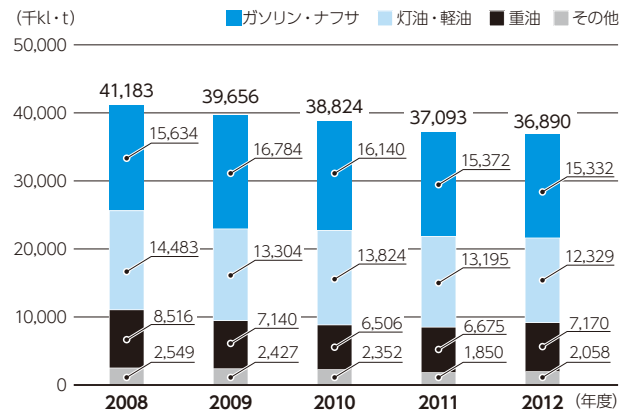
経常利益・当期純利益の推移(連結)



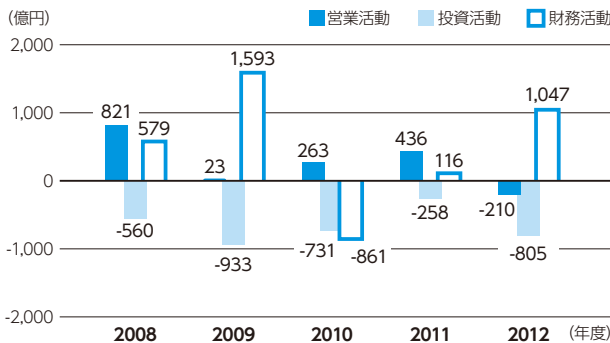
自己資本と自己資本比率の推移(連結)



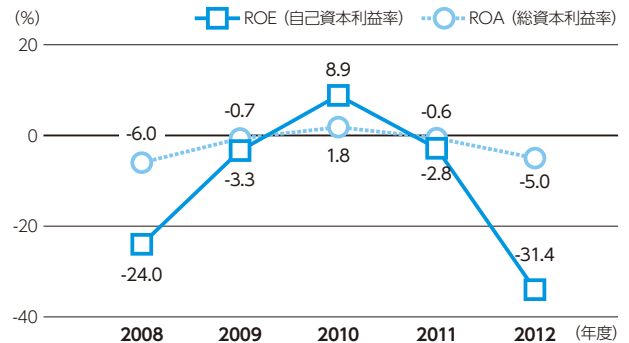
販売状況の推移(単体)



キャッシュ・フローの推移(連結)



利益率の推移(連結)



編集方針

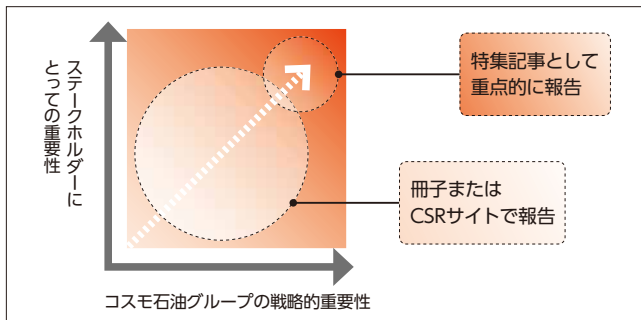
コスモ石油グループでは、2001年度から「環境報告書」、2004年度から「サステナビリティレポート」を発行してきましたが、2010年度よりタイトルを「コーポレートレポート」とし、会社案内としての情報を充実させた総合的コミュニケーションツールとしています。

本レポートの編集にあたっては、GRI (Global Reporting Initiative) の「GRIサステナビリティ・レポーティング・ガイドライン 2006」を参考にしながら、ステークホルダーの皆様からいただいたアンケートなどの意見を踏まえて、ステークホルダーの皆様にとって重要性が高く、かつコスモ石油グループの経営理念や経営戦略、リスク要因と照らして重要と考えている事項について重点的に報告しています。

また、今年度は活動報告編を「CSR活動方針」の重点項目に沿って掲載しています。さらに環境パフォーマンスの集計に関しては、環境省の「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考にしています。

※ 社員の所属および肩書きは2013年3月現在のものです。

報告における重要事項



コーポレートレポートとwebの関係

コスモ石油グループでは、より多くのステークホルダーの皆様にご理解いただくため、わかりやすさ・読みやすさを追求した冊子版(本レポート)と詳細な事例・データを追加したweb版の2部構成として報告しています。web版は、下記コスモ石油公式サイトにてご確認ください。

CSRサイト <http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/>

また、コーポレートレポートに関するアンケートをwebで実施していますので、よろしければご回答ください。

アンケートサイト <http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/enq/>

報告期間

本レポートは、コスモ石油グループの2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)のCSRに関する活動を報告するものです。ただし、一部2013年度の内容も含んでいます。コスモ石油グループの全体像はP8-9の「コスモ石油グループの事業」をご覧ください。

報告範囲 (2011年度の報告から重要な変更はありません)

「CSR活動方針」を推進する右記23社が中心ですが、コスモ石油単体のデータあるいは一部の会社のみデータがあり、それらは掲載箇所に脚注で記載しています。

発行時期

発行日: 2013年9月

次回発行予定: 2014年9月(前回: 2012年9月、毎年発行)

目次

コスモ石油グループの概要	2
トップコミットメント	4
コスモ石油グループのCSR	6
コスモ石油グループの事業	8

特集

1 さらなる成長へ向けて【製油所の安全・安定操業】 “変革”を着実に進め、持続的成長をめざす	10
2 次のコスモ石油へ【発電事業】 “ポートフォリオの拡大”に向けて、 持続可能なエネルギーを	12

2012年度活動ハイライト

Chapter 1 お客様の信頼と満足に応えます	14
Chapter 2 安全で事故のない企業をめざします	16
Chapter 3 人を大切にします	18
Chapter 4 地球環境を大切にします	20
Chapter 5 社会とのコミュニケーションを大切にします	22
Chapter 6 誠実な企業であり続けます	24

活動報告

2012年度の取り組み状況	26
重点項目 1 安全管理施策の強化	28
重点項目 2 誠実な業務遂行	30
重点項目 3 人権/人事施策の充実	32
重点項目 4 環境対応策の推進	34
重点項目 5 社会に応えるコミュニケーション活動の推進	37
第三者保証報告	39

☑ KPMGあずさサステナビリティ(株)の保証対象の内容については「保証対象マーク」で表示しています。

石油開発

アブダビ石油株式会社
カタール石油開発株式会社

製造・販売

コスモ石油ブリカンツ株式会社
コスモ松山石油株式会社

販売

コスモ石油ガス株式会社
コスモ石油販売株式会社

物流

北斗興業株式会社
コスモ海運株式会社
コスモ陸運株式会社
コスモペトロサービス株式会社
コスモテクノ四日市株式会社
関西コスモ物流株式会社
坂出コスモ興産株式会社

その他事業

コスモエンジニアリング株式会社
株式会社コスモトレードアンドサービス
コスモビジネスサポート株式会社
株式会社コスモ総合研究所
株式会社コスモコンピュータセンター
エコ・パワー株式会社

海外

英国コスモ石油株式会社
コスモオイルインターナショナル株式会社
米国コスモ石油株式会社

コスモ石油株式会社

問い合わせ先

コスモ石油株式会社 リスクマネジメントユニット CSR環境部

TEL : 03-3798- 3134 FAX : 03-3798-3187 <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業として、
信頼に応え、継続して社会に貢献できる
コスモ石油グループをめざします。

コスモ石油株式会社
代表取締役社長 社長執行役員

森川 桂造



❖ コスモ石油グループの使命

2011年東日本大震災の被災と2012年6月に発生したアスファルト漏洩事故により、千葉製油所はほぼ2年間フル稼働ができておりません。アスファルト漏洩事故の原因究明と再発防止策を策定し、稼働再開に向けて注力した結果、2013年1月に原油処理を再開させることができました。改めて、製油所周辺の皆様をはじめ関係する多くの方に、大変なご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。このようなことが二度と起きないように、何としても安全・安定操業の実現に向け、力を尽くしていく所存です。

私たちが扱う石油製品は「人の命」と「生活」を守る商品です。東日本大震災で再認識したように、灯油は人々に暖を、ガソリンや軽油は被災地に物資を運ぶ輸送燃料の役割を果たし、まさに人々の命を守りました。また、ペットボトルや衣料品といった生活必需品の多くは石油を原料としており、日常生活に深く浸透しています。

こうしたことを踏まえ、コスモ石油グループの使命は、生活に密接にかかわっている石油製品を「安定的にかつ高品質な状態でお客様にお届けする」ことであり、この使命を果たすべくグループ一丸となって取り組んでまいります。

❖ 第5次中期経営計画の基本方針

新中期経営計画では、「成長の基礎を固め、コスモ石油グループの磐石な経営基盤を確立していく5年間」をテーマに、4つの基本方針を策定しました。「石油精製販売事業における収益力の回復」「前中期経営計画で実施した戦略投資の確実な回収」「IPIC・HDO*とのアライアンス強化」「CSR経営の推進」です。

企業の社会的責任を果たせるよう、今まで以上にCSR経営を推進します。ルールにしたがって、誠実な業務遂行を推進すると同時に、PDCAの徹底で恒常的に業務改善に取り組む体質を浸透させます。

以上の取り組みによって、私たちは「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」をめざします。

* IPIC (国際石油投資会社)

中東産油国UAE (アラブ首長国連邦) 第一の首長国・アブダビが全額出資する政府系ファンド。アブダビ首長国外の石油、石油化学分野を主たる対象として投資し、自国産原油から派生する石油産業のバリューチェーン構築をめざして設立されました。

HDO (ヒュンダイオイルバンク株式会社)

2013年5月、緊急時の相互協力体制構築に関する覚書を締結。これにより、コスモ石油とHDOは、エネルギー供給事業者として、石油製品の相互融通などを含む協力体制を構築し、緊急時においても石油製品の安定的な供給に努めていきます。

●● 供給体制の再構築について

コスモ石油は1986年の合併以来27年間、現在まで4製油所(千葉、四日市、堺、坂出)の供給体制を堅持してまいりましたが、国内の石油需要は漸減し、将来においても同じ傾向が続くと想定されます。

このような環境のもと、各製油所の立地や規模など総合的な観点から検討を重ねた結果、当社の経営資源を3製油所に集中し、2013年7月にて坂出製油所の精製機能を停止することを決定いたしました。今後は3製油所で効率的な供給体制を構築し、安定供給と競争力の向上に努めてまいります。

精製機能は停止するものの、坂出製油所は西日本地域への石油製品の安定供給を果たすため、物流拠点機能のオイルターミナルとして事業継続いたします。精製装置の跡地活用についても、企業価値増大につながるあらゆる選択肢を検討してまいります。また、坂出製油所に勤務するグループ社員については、配置転換等により、コスモ石油グループ全体で雇用を確保するとともに、近隣地域の皆様への社会貢献を引き続き支援させていただく予定です。

●● 組織改定について

コスモ石油グループは、第5次連結中期経営計画の実行度を高めるため、組織改定を2013年6月25日付で実施いたしました。

「ユニット制」を導入し、本社の部署、支店・製油所などの事業所、関係会社を事業・機能ごとに集約します。新た

に8つのユニットを設置することで、戦略の立案と実行、および収益の責任を明確にし、事業単位での収益最大化を図ります。

また、全社のリスク管理を目的とした「リスクマネジメントユニット」を新設しています。リスクマネジメントユニットには、製油所の安全管理に特化した製油所安全部、および全社のリスクを一元管理するCSR環境部を新設し、当社グループ全体への牽制機能の強化をはじめ、製油所の安全・安定操業とリスク管理体制を強化します。

●● 信頼され社会に貢献できる企業に

2013年度より、5年間にわたる『CSR活動方針～ココロと安全の「満タン活動」～』がスタートしました。2017年度のゴールビジョン『信頼に応え、継続して社会に貢献できるコスモ石油グループとなる』を全社員が共有し、CSR活動方針の諸施策を推進してまいります。

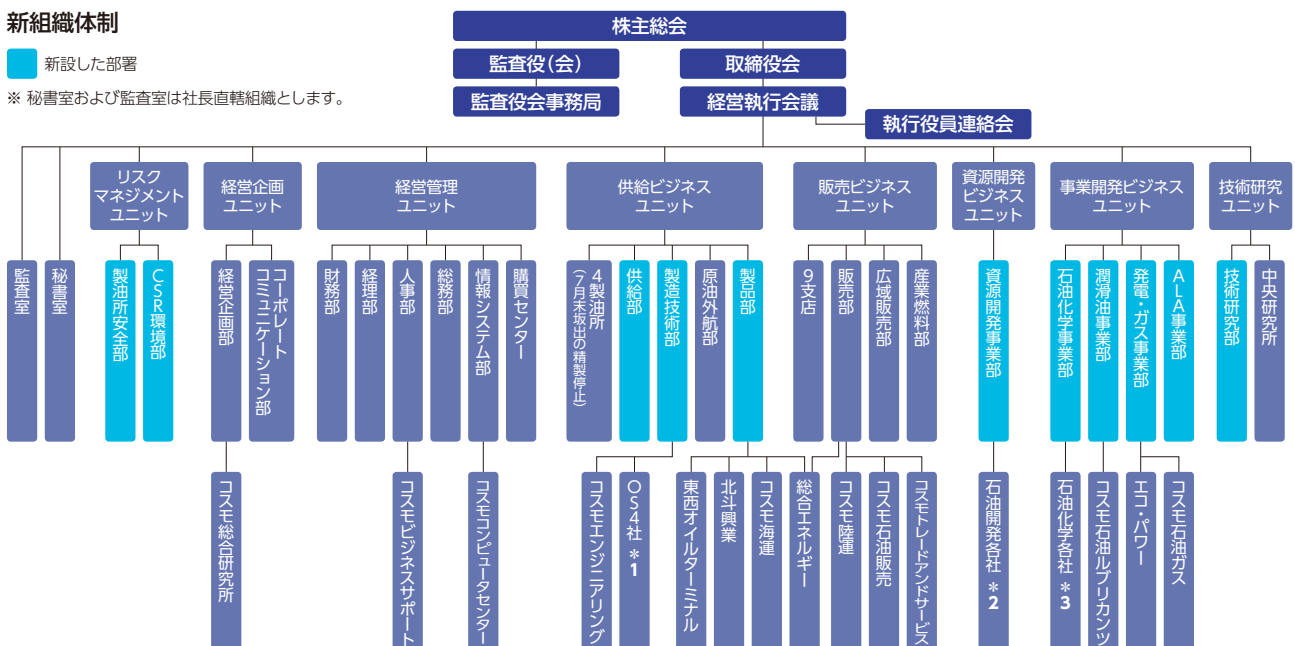
また、グローバル基準に則したCSR活動にするために、2006年より国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しており、人権・労働・環境・腐敗防止など基本原則を尊重したCSR経営に積極的に取り組んでいます。この基本原則は「コスモ石油グループ企業行動指針」にも通じており、社会的責任のある経営を推進し、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。

2013年度におきましては、コスモ石油グループ一丸となって、製油所の安全操業・安定供給の使命を果たし、企業としての社会的責任を果たすべく、これまで以上にCSR経営を推進することで社会から信頼されるエネルギー企業をめざしていく所存です。

新組織体制

■ 新設した部署

※ 秘書室および監査室は社長直轄組織とします。



* 1 OS(アウトソーシング)4社: コスモペトロサービス、コスモテクノ四日市、関西コスモ物流、坂出コスモ興産

* 2 石油開発各社: アブダビ石油、カタール石油開発、コスモアシユモア石油、合同石油開発

* 3 石油化学各社: コスモ山石油、丸善石油化学、CMアロマ、Hyundai Cosmo Petrochemical

コスモ石油グループのCSR

コスモ石油グループは経営理念を実現するために、「コスモ石油グループ企業行動指針」にもとづいて、連結中期経営計画とCSR活動方針を表裏一体とするCSR経営を進めるとともに、社員一人ひとりが誠実にCSR活動に取り組んでいます。

コスモ石油グループ経営理念

わたしたちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざします。

調和と共生

地球環境との調和と共生
エネルギーと社会の調和と共生
企業と社会の調和と共生

未来価値の創造

顧客第一の価値創造
個の多様な発想による価値創造
組織知の発揮による価値創造

コスモ石油グループ企業行動指針

- 1章 お客様の信頼と満足に応えます
- 2章 安全で事故のない企業をめざします
- 3章 人を大切にします
- 4章 地球環境を大切にします
- 5章 社会とのコミュニケーションを大切にします
- 6章 誠実な企業であり続けます

P14～25
Chapter
1～6



第5次連結中期経営計画

CSR活動方針

～ココロと安全の「満タン活動」～

- 1 安全管理施策の徹底
- 2 誠実な業務遂行
- 3 人権/人事施策の充実
- 4 環境対応策の推進
- 5 グループ内および社会とのコミュニケーション活動の推進

P26～38
重点項目
1～5

2012年度の
取り組み状況

第5次連結中期経営計画

コスモ石油グループは、2011年3月の東日本大震災および2012年6月の千葉製油所のアルファルト漏洩事故により、財務体質の悪化を余儀なくされています。そこで今年度からスタートした「第5次連結中期経営計画(2013年度～2017年度)」では、石油精製販売事業における収益力の強化を中心として、財務体質の改善を果たし、早期の復配を実現します。さらに長期的には「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」として、社会に貢献できる企業をめざしています。

右図中 * IPIC (国際石油投資会社)
HDO (ヒュンダイオイルバンク株式会社)
詳細はP4参照

連結中期経営計画とCSR活動方針

コスモ石油グループでは、これまで「連結中期CSR計画」を基にCSR活動を進めてきました。2013度からはタイトルを『CSR活動方針(2013年度～2017年度)～ココロと安全の「満タン活動」～』に変更し、この活動方針に則って取り組みを進めていきます。

コスモ石油グループは経営計画とCSR活動方針を表裏一体としてCSR経営を進めるとともに、グループ社員一人ひとりが誠実に業務を遂行し、社会からの期待に応えることで経営理念の実現につながると考えています。

基本方針

成長の基礎を固め、コスモ石油グループの盤石な経営基盤を確立していく5年間

2013年度

2014年度

2015年度

2016年度

2017年度

「変革」の継続による持続的成長

成長への基礎を固め 軌道に乗せる

収益力強化による財務体質の改善と早期の復配を追求

石油精製販売事業における
収益力の回復

前中期経営計画で実施した
戦略投資の確実な回収

IPIC・HDO*との
アライアンス強化

CSR経営の推進

長期的にめざすべき姿

グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業

経営理念 「調和と共生」「未来価値の創造」

連結中期経営計画

コスモ石油グループ企業行動指針

CSR活動方針

実務

2章 安全で事故のない企業をめざします

6章 誠実な企業であり続けます

1章 お客様の信頼と満足に応えます

3章 人を大切にします

4章 地球環境を大切にします

5章 社会とのコミュニケーションを
大切にします

最重点項目

1 安全管理施策の徹底

2 誠実な業務遂行

継続項目

3 人権/人事施策の充実

4 環境対応策の推進

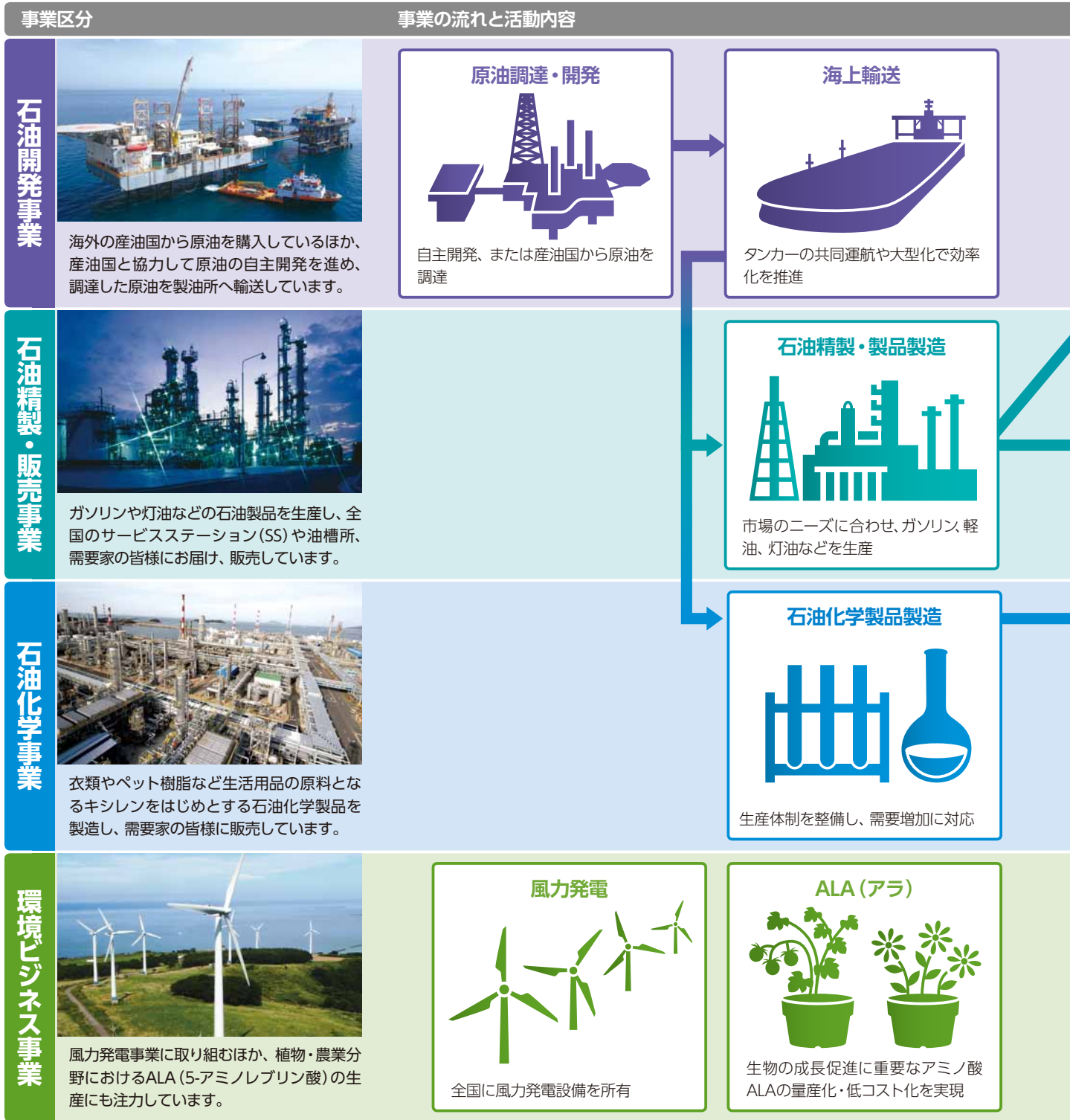
5 グループ内および社会との
コミュニケーション活動の推進

各社部門

グループ全社員

「コスモ石油グループ企業行動指針」にもとづき、経営計画とCSR活動方針を表裏一体としてCSR経営を進めるとともに、グループ全社員が一丸となってCSR活動方針に取り組むことで、社会に貢献できるコスモ石油グループをめざします。

コスモ石油グループの事業



グループ会社一覧

マークの読み方

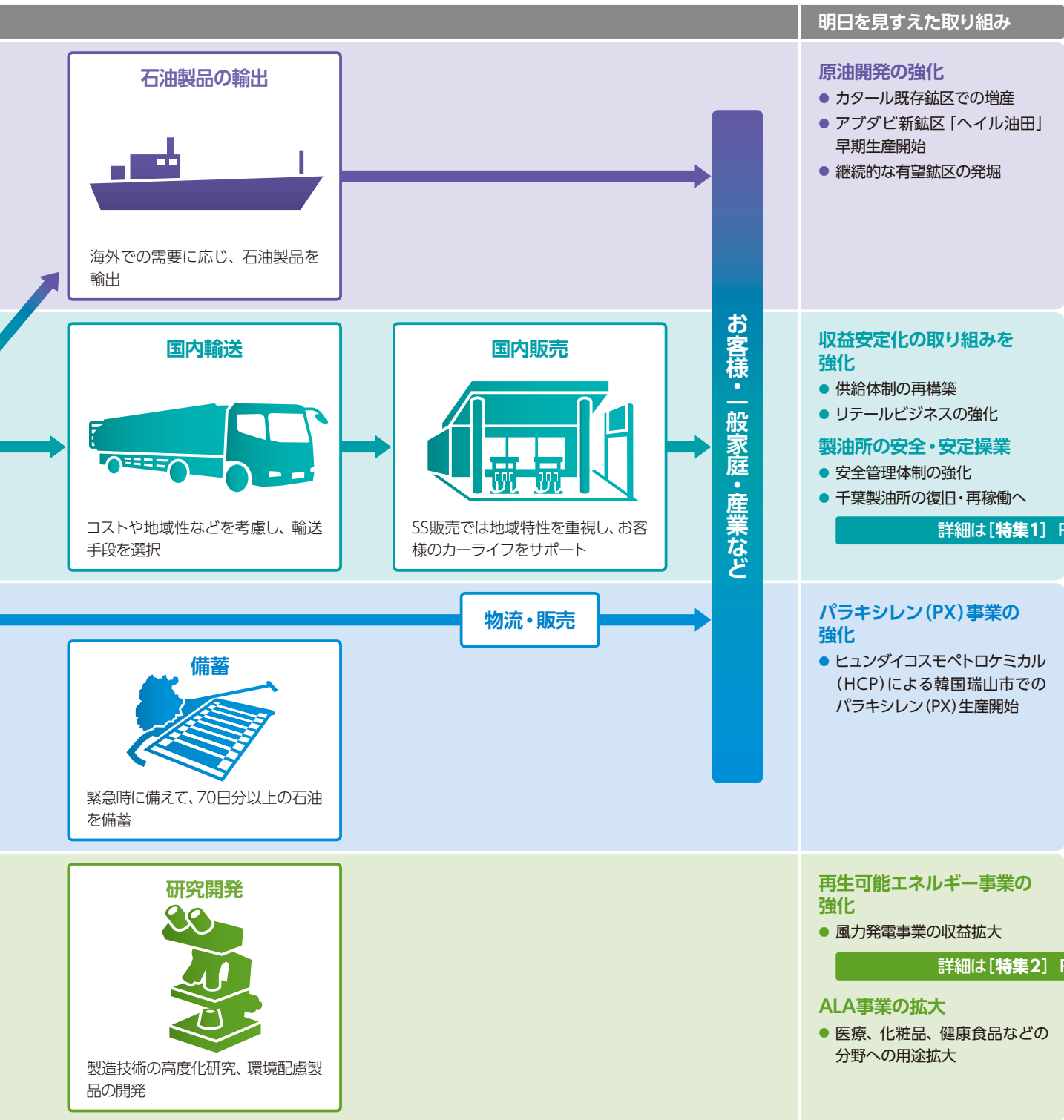
- ◎…連結子会社
 - …持分法適用会社
- 2013年3月31日現在

石油開発事業

- 原油調達・開発**
- ◎アブダビ石油(株)
 - ◎カタール石油開発(株)
 - ◎コスモアシュモア石油(株)
 - 合同石油開発(株)
- 原油・石油製品の輸出入**
- ◎英国コスモ石油(株)
 - ◎コスモオイルインターナショナル(株)
 - ◎米国コスモ石油(株)
- 備蓄**
- 沖縄石油基地(株)

石油精製・販売事業

- 石油精製・製品製造**
- ◎コスモ石油(株)
 - ◎コスモ石油ルブリカンツ(株)
- 国内輸送**
- 東西オイルターミナル(株)
 - 北斗興業(株)
 - ◎コスモ海運(株)
 - ◎コスモ陸運(株)
 - ◎コスモペトロサービス(株)
 - ◎コスモテクノ四日市(株)
 - ◎関西コスモ物流(株)
- 国内販売**
- ◎コスモ石油販売(株)
 - ◎総合エネルギー(株)
 - ◎コスモプロパティサービス(株)
 - 桜橋産業(株)
 - トコスカーサポート(株)
 - コスモリフォーム(株)
- ◎坂出コスモ興業(株)
 - 千葉コスモ港運(株)
 - コスモルプサービス(株)
 - ◎四日市エルピージー基地(株)
 - (株)アムテックス
 - ◎コスモ石油ガス(株)
 - 東北コスモガス(株)
 - (株)長田野ガスセンター



石油化学事業

石油化学製品製造

- ◎コスモ松山石油(株)
- ◎CMアロマ(株)
- 丸善石油化学(株)
- Hyundai Cosmo Petrochemical Co.,Ltd.

環境ビジネス事業

風力発電

- ◎エコ・パワー(株)
- ◎波崎ウインドファーム(株)
- ◎銚子ウインドファーム(株)
- ◎段ヶ峰ウインドファーム(株)
- 伊方エコ・パーク(株)
- (株)稚内ウインドパワー
- ◎(株)たちかわ風力発電研究所
- ◎エコ・ワールドくずまき風力発電(株)
- (株)秋田ウインドパワー研究所
- (株)五島岐宿風力発電研究所
- ALA(アラ)**
- ◎コスモALA(株)
- 環境対策支援事業**
- コスモエコサポート(株)

その他事業

- ◎コスモエンジニアリング(株)
- ◎(株)コスモトレードアンドサービス
- ◎コスモビジネスサポート(株)
- ◎(株)コスモコンピュータセンター
- ◎(株)コスモ総合研究所
- コスモ海洋牧場(株)
- トコスエンタプライズ(株)
- 北ガスフレアスト函館南(株)
- (株)宣信社
- SUMMIT TRADING CO.L.L.C.
- MUSASHI INTERNATIONAL.W.L.L.
- アブダビ興産(株)
- A.D.MARINE.INC
- ◎克斯莫石化貿易(上海)有限公司
- ◎COSMO OIL EUROPE B.V.

“変革”を着実に進め、

コスモ石油グループは、2011年3月の東日本大震災および2012年6月のアスファルト漏洩事故により、主力工場である千葉製油所が長期間稼働を停止し、それにより財務体質の悪化を余儀なくされました。こうした状況にあってコスモ石油グループは、製油所の安全操業こそ最重要な収益基盤であるとの認識のもとに、千葉製油所を中心として、製油所の安全操業に向けてさまざまな変革活動を実施しています。これにより石油精製販売事業の収益改善を実現し、持続的成長を図ります。

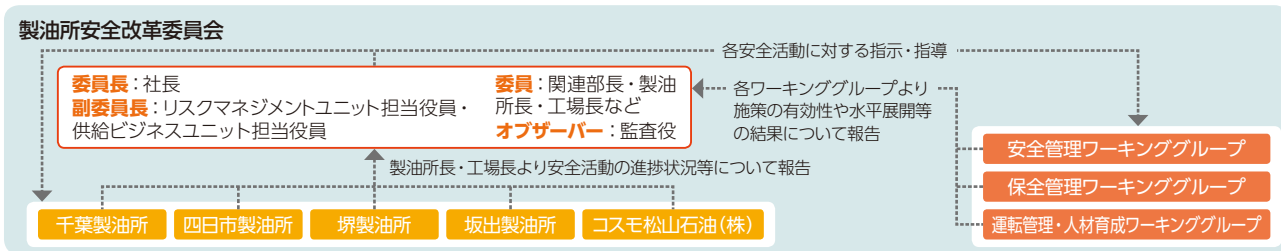
製油所の安全管理体制を変革

2012年度は、安全管理の向上のため、製油所の安全環境部門の体制を再構築しました。これまで各製油所に設置されていた「安全環境室」を、防災・安全管理の推進と指導をする「安全推進課」と、保安・環境法令の遵守および環境管理を推進する「安全環境課」に分け、2課体制としました。さらにこの2課を統括する安全環境担当副所長を新たに置き、安全管理体制の強化を図っています。

製油所安全改革委員会を設立

コスモ石油グループ製油所部門は、2006年から「チェンジ21活動」を推進し不安全不具合の撲滅に取り組んできましたが、千葉製油所で事故が発生するなど、安全目標を達成できませんでした。そこで、製油所の安全確保は経営上の最重要課題との認識に立ち、社長を委員長とした「製油所安全改革委員会」を2013年3月に設立しました。同委員会を軸に、製油所の安全施策の進捗や評価・見直しなどPDCA*のマネジメントをしっかりと実行し、安全操業・安定供給の実現をめざしています。

* PDCA : Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善) の4段階を繰り返すことによって業務を継続的に改善します。



千葉製油所 再稼働への道のり

コスモ石油では、2011年3月の東日本大震災および2012年6月のアスファルト漏洩事故により、主力工場である千葉製油所が長期間の稼働停止を余儀なくされました。その間、四日市、堺、坂出製油所での増産を維持しつつ、千葉製油所の復旧と安全管理体制の整備を進めてきました。

2011

3月11日

東日本大震災発生

東日本大震災を契機に、コスモ石油千葉製油所（千葉県市原市）のLPG貯蔵設備にて火災・爆発が発生。市原市消防局と協力して消火活動に努め、3月21日に鎮火しました。

4月1日

事故調査委員会を設置

社外有識者を含めた事故調査委員会を設置しました。

4月5日

千葉製油所復旧委員会を設置

事故調査委員会の結果も踏まえ、LPG貯蔵設備の安全かつ効率的な復旧をめざしました。

8月2日

事故調査完了

事故の状況・原因および再発防止策（①安全総点検活動、②緊急異常時の対応能力、③再発防止策の進捗管理および水平展開）をまとめ、事故調査委員会を解散しました。

10月/12月

防災訓練実施

大規模地震の発生後、火災が発生したとの想定で訓練を実施。近隣企業や監督官庁との連携・伝達の確認、および近隣住民に向けた広報活動訓練も行っなど、総勢300人で取り組みました。



持続的成長をめざす

千葉製油所をリニューアルし、長期的に安全性を高める

コスモ石油グループでは、製油所の安全操業・安定供給を実現するために、ハード・ソフト両面での取り組みを進めています。ハード面では製油所設備の補修・保全を強化し、なかでも千葉製油所には280億円を投じてリニューアルプランを実行します。より広範囲に設備を補修・更新することで、全体的な経年劣化を改善し、長期的な安全性を確保します。

ソフト面では現場力の向上と法令遵守をテーマに、安全PDCAの徹底に取り組んでいます。外部コンサルティング企業や安全専門家の支援のもと、2011年度～2012年度の事故を検証し、業務プロセスの再構築を図っています。



定期整備工事の安全大会を実施

千葉製油所は秋季定期整備工事における安全目標の再確認を目的として、2012年10月、現場安全大会を実施しました。コスモ石油だけでなく、協力会社とともに「安全作業」「ゼロ災害」に対する意識を強化する機会となりました。(写真左/千葉製油所所長・大滝勝久 右/安全大会の様子)

千葉製油所の安全管理活動

設備等に関する取り組み

- パトロールで設備の危険箇所などを指摘し、対策の実施を確認
- 補修、更新が必要な設備等について計画的に実施
- 設備の健全性確認および設備の信頼性を確保するための取り組み(重点点検)を実施

安全教育と訓練

- 危害予防規程などの特別規程について、全所員に教育を実施
- 外部講師による保安教育を全所員に実施
- 市原市消防局にも参加していただき、大規模災害を想定した訓練を実施

リスクアセスメント

- ヒヤリ案件に対しリスク評価を行い対応(ヒヤリカモシレ活動)
- 作業前に危険源を把握した上で作業を実施(危険予知活動)
- 非正常作業は作業手順や危険要因を周知徹底して作業を実施

2012

1月12日

一部の石油精製装置が稼働

全社一丸となって復旧に取り組み、保安検査等を受けた結果、一部石油精製装置が稼働を再開。その他の石油精製装置についても、安全確保を徹底した上で順次保安検査等を受け、稼働再開へ向けて準備を進めました。

3月30日

第2常圧蒸留装置が稼働

原油から石油製品の生産を再開しました。

6月28日

タンクよりアスファルト漏洩

タンク外へアスファルトが漏洩、うち一部が海上へ流出しました。オイルフェンスを展開するなど拡散防止策を講じた上で回収作業を進めました。

7月10日

事故調査委員会を設置

外部の学識経験者および関係機関の方々を含めた事故調査委員会を設置しました。

9月13日

事故調査完了

事故の状況・原因および再発防止策(アスファルトタンクの保全・運用の管理強化)をまとめ、事故調査委員会を解散しました。

2013

1月30日

第2常圧蒸留装置が再稼働

第2常圧蒸留装置の安全操業に努めるとともに、安全確保を徹底した上で、完全復旧をめざしました。

5月10日

第1常圧蒸留装置が再稼働

第2常圧蒸留装置の定期整備による停止に伴い、第1常圧蒸留装置で原油処理を開始しました。

7月24日
2基体制再開

第2常圧蒸留装置の定期整備が終了し、すでに稼働している第1常圧蒸留装置と合わせた2基体制で稼働を再開しました。東日本大震災前と同様の原油処理が可能となり、代替供給コストの解消と輸出再開による収益増が期待されます。

資源の枯渇、エネルギーの安定供給、さらに地球温暖化への対応といった社会課題に対し、環境負荷のない純国産のエネルギー源として期待が高まる再生可能エネルギー。

なかでも、比較的 low コストで夜間も発電できる風力発電は、今後の発展が見込まれています。

コスモ石油グループは新規ウインドファームを開発し、持続可能な事業、社会の実現をめざした挑戦を始めています。

“ポートフォリオの拡大” に向けて、 持続可能なエネルギーを

1

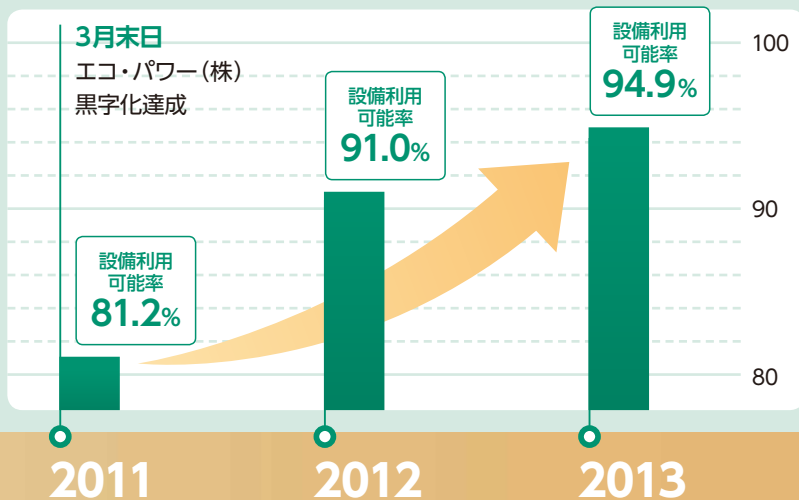
既存設備の 発電量最大化

故障などによる風車の稼働停止時間を改善し稼働率を高めるため、メンテナンスの効率化に取り組んでいます。

3月
エコ・パワー(株)
買収

コスモ石油では、2004年12月より山形県酒田市にて風力発電の営業運転を開始しており、さらなる事業発展のため、エコ・パワー(株)をグループ化しました。

3月末日
エコ・パワー(株)
黒字化達成



2010

2011

2012

2013

設備利用 可能率向上 のための 取り組み

従来の課題

- 保全技術確立が未達成
- 故障発生時の部品調達
- メンテナンス対応



メンテナンス体制強化のための具体策

- 要員の補充とスキルアップへの施策実施
- 予備品の在庫管理と国内外調達ルートの開拓
- 早期復旧と改良保全に向けた補修工法の改善



遊休地を活用した太陽光発電事業

コスモ石油は2013年3月、昭和シェル石油および日本政策投資銀行と共同で新会社、CSDソーラー合同会社を設立し、大規模太陽光発電(メガソーラー)事業に本格的に参入しました。事業用地には製油所からSSへ直送するシステムの発達で不要になった油槽所などの跡地8カ所を利用し、発電パネルは昭和シェル石油子会社、ソーラーフロンティア製を使用します。建設できたサイトから順次、商業運転を開始し、8カ所のメガソーラー合わせて約24,000kWの発電規模になる見込みです。

コスモ石油グループはメガソーラー事業を通じて、日本におけるクリーンで安全なエネルギーの持続的な供給に取り組んでいきます。

メガソーラー事業の概要

- 運営会社 CSDソーラー合同会社
- 発電容量 約24,000kW
- 使用パネル ソーラーフロンティア製(昭和シェル石油子会社)
- サイト 扇島石油基地跡地(コスモ石油・昭和シェル石油共有)、コスモ石油の日立油槽所跡地など7カ所、合計8カ所



※ 写真はイメージです

風力発電事業の強化

東日本大震災以降、再生可能エネルギーへの社会の期待が高まり、2012年7月には固定価格買取制度(FIT) *が導入されるなど、再生可能エネルギー普及へ向けた環境が大きく変化しています。

コスモ石油グループは新中期経営計画で「ポートフォリオの拡大」を掲げ、再生可能エネルギー、特に風力発電事業の拡大を今後の成長戦略の柱のひとつとしました。2010年に風力発電事業で実績のあるエコ・パワー(株)をグルー

プに迎え、わずか1年で黒字化を達成した今、新たな成長基盤の構築と風力発電の発展に向けて、風力発電事業の強化に動き出しています。

* 固定価格買取制度

再生可能エネルギーを育てることを目的に、再生可能エネルギー(太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス)を用いて発電された電気を、一定価格で電気事業者が買い取ることを義務づけた制度。電力会社が買い取る費用は、電気使用者が電気料金の一部として負担

2

新規 ウインドファーム

日本全国の風況の良い場所を調査し、新たなウインドファームの開発に向け、自治体や地域住民の皆様との合意形成を進めています。

10月/和歌山県

広川・日高川
ウインドファーム
運転開始予定

想定出力
20,000kW

3月/福島県

会津若松
ウインドファーム
運転開始予定

想定出力
16,000kW

三重県

度会
プロジェクト
運転開始予定

想定出力
50,000kW

その他、各地にてウインドファームの開発を検討中

2014

2015

2016

3

浮体式 洋上風力発電 の可能性



海に囲まれた日本で有望視されている海上の風力に着目し、エコ・パワー(株)が環境省の「浮体式洋上風力発電実証事業」に外部協力者として参画、ノウハウを蓄積しています。

「浮体式洋上風力発電実証事業」概要

浮体式洋上風力発電施設(小規模試験機100kW、実証機2,000kW)による実証事業
場所:長崎県五島市柘島 ※ 写真は小規模試験機

社会の基盤を担う 責任の重さを感じて

○ コスモ石油株式会社
原油外航部 原油グループ 山田 貴大 (現 米国コスモ石油株式会社)

● 年間1億バレル規模の契約交渉

2009年に入社して原油外航部外航グループに3年、そして現在の原油グループで1年になります。外航グループでは購入した原油を製油所へ運ぶ外航船のマネジメントに携わり、その経験を活かして原油グループでは原油の調達業務を行っています。原油のなかでも特にコンデンセートという、天然ガス由来の原油の一種の調達を任されています。

具体的には産油国との契約交渉業務で、条件面の交渉や月次の調整などが主な仕事です。契約には1年間のターム契約と月々のスポット契約があり、ターム契約は1日あたり約30万バレル、年間では1億バレル規模になります。

● 常に代替案を持ってトラブルに対処

ターム契約の場合、毎年1月が契約更新期ですので、その2、3カ月前から交渉に入ります。さらに毎月の積み込みについては、その2カ月前から積み込む原油の種類と量、船の選別、日時など、詳細なプランを立てて産油国に提出します。

スポット契約の場合は、その都度必要な原油の量や調達先について、2カ月前に会議を行い、決定します。スポット契約は全体の3割程度に当たり、2カ月前のニーズを読むことと、どれだけ良い条件で調達できるかがポイントです。業務を進めるなかでは、大小さまざまな問題がつかまえます。ですから常に別の代替案を用意し、原油の安定的な調達に努めています。

「バレル」とは？

体積(容積)を表す単位で、マーケットでの取引以外にも、油田の規模や生産できる原油の量、製油所の生産能力や精製できる石油製品の量などもバレルで表されます。用途や国によっていくつかの定義がありますが、石油用バレルは、「1バレル=42米液量ガロン=約159ℓ」です。右のタンカーでは、約200万バレルの原油を運ぶことができ、これは千葉製油所の約9日分の処理量にあたります。



◀ タンカー
MAERSK HAKATA

右端
商談会議の様子 ▶
(コスモ石油 本社会議室)

コスモ石油グループは、原油の安定調達に向けて、早くから中東産油国との信頼・協力関係を築くための活動に力を注いできました。原油外航部の原油グループでは、石油製品の原料となる原油をできるだけ安く、安定的に調達する役割を担い、安くて性状に問題がないことを前提に、南米や極東アジアからも広く調達を行っています。



より広い視野から石油の世界を見たい

この仕事は扱う金額の大きさもさることながら、社会生活の基盤を担っているという責任の重さがあります。調達やプランに問題があれば、場合によっては日本経済、日本の生産活動そのものに影響を与えかねません。

私は国益にかかわる仕事がしたいと思い、この会社に入社しました。原油の世界は奥が深く、例えば投機資金によって原油価格が上下するため、原油価格、産油国の生産動向だけでなく、ヘッジに関する知識も必要になります。石油は「インフラのなかのインフラ」と呼ばれていますが、この世界をもっと深く知り、さらに広い視野を身につけることで、お客様の信頼に応え、より満足していただけるようになりたいです。



原油グループの仕事と使命

業務内容の大分類

原油輸入計画方針および
輸入計画の立案・実施
(国家備蓄原油調達を含む)

損害保険

官公庁等へのデータ、
実績報告および
社外報告書の作成・提出

企業行動指針

第1章 1. (1) エネルギーの安定供給
第6章 3. (1) 誠実な取引

第1章 1. (1) エネルギーの安定供給

第5章 2. (2) 適切な情報開示
第6章 3. (5) 政治・行政等との
透明性の高い
関係の構築

4. (1) 情報の正しい取り扱い



表敬訪問 上/極東経済研究所 下/極東連邦大学

常に丁寧な交渉で安定供給を実現

原油グループの仕事は、産油国やトレーダー、商社などからの原油の調達と余剰分の売却です。購入から船積み、海上輸送にかかわる、保険などのさまざまな手続きやコントロールを行います。

石油は産業の基礎ですから、私たちの最大の使命は原油の安定供給です。そのために一番重要なのは、実はコミュニケーション能力なんです。主な契約先である中東でも、それぞれのお国柄、文化は異なります。私は3年間のアブ

ダビ駐在経験でそういったことを

学びました。その国の人や文化

を良く理解して、できるだけ

丁寧に、正直にお付き合い

いすることが何よりも

大事で、その上で、

常に安価で安定

的な原油の調

達をめざすこと

が、私たちの使

命であると考え

ています。



コスモ石油株式会社
原油外航部 原油グループ

グループ長

酒谷 英太郎 ○

Chapter

2

お客様の安全を第一に 安全対策を強化



● コスモ石油特約店 湊商事株式会社 仙台支店
カーケアステーション 石巻東

かつしか
所長 勝然 良一

● 東日本大震災発生、その時

震災の日は通常通りに営業をしていました。何かにつまらなければ立ってられないほどの強い揺れで、テーブルの下に隠れることさえできませんでした。それは初めての経験でした。

すぐにアルバイトたちを帰しました。停電により営業不能になっており、ラジオからは津波警報が流れていました。残った従業員で閉店作業をしていると、ひとりが「来たー」と叫びました。見ると、防波堤がなくなって、真っ黒い壁が松林をザーと動かしていました。「駄目だー逃げろー!」と言って走って逃げました。水は、逃げ込んだ5階建てのマンションの2階まできました。さらに上まで水がきていたら、私たちも助からなかったかもしれません。

● がれきのなかで復興の第一歩

震災発生の翌朝、夜明けとともに戻ってみると、もう何もありません。建屋の骨組みだけ。あとはすべてが流されていました。この場所でのこの商売をして30年以上ですが、私は途方に暮れました。それでもお客様の営業再開を望む声もあり、5月には、がれきが残った状態のまま、計量機1台と発電機でなんとか仮営業にこぎつけました。

翌2012年の2月1日に復旧工事がはじまり、2ヵ月後に完全復旧となりました。もちろん、地震・津波対策を講じました。発電機、防水の計量機を備え付け、カーバッテリーで作動する地下タンク直結型ポータブル計量機も用意しました。いざという時のために、衛星電話、建屋の屋上へ上がる避難はしごも設置しました。

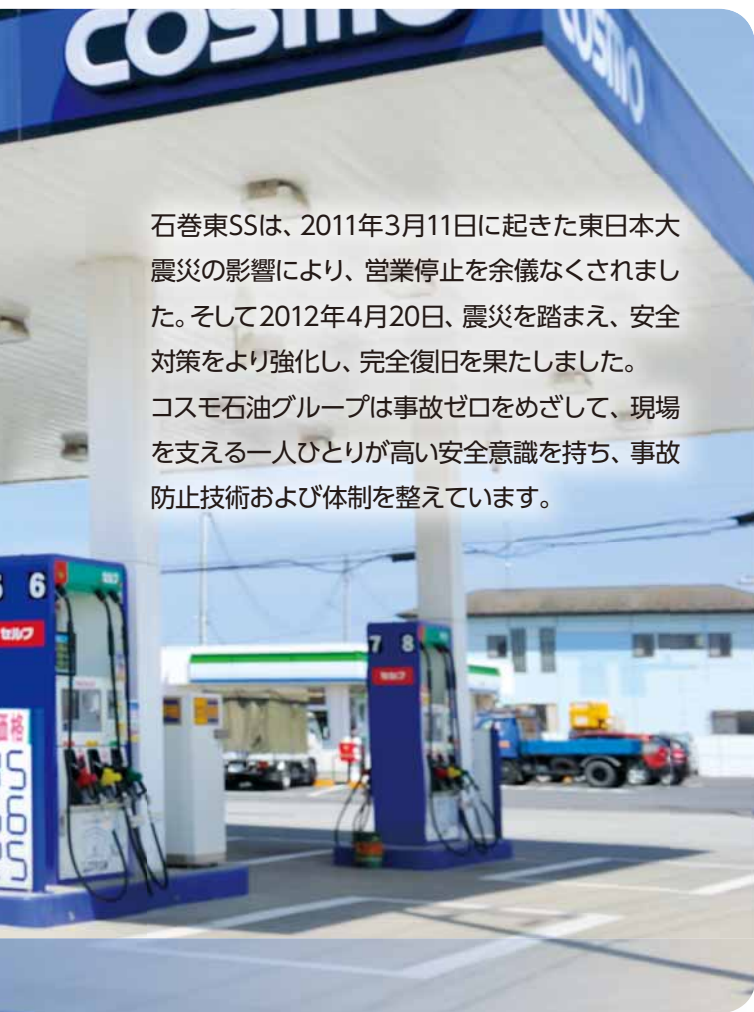


◀ 石巻東のSSスタッフ



災害対応機器を設置 左から
衛星電話 ▲
発電機 ▶
防水の計量機 ▶
屋上への避難を可能にした避難はしご ▶





石巻東SSは、2011年3月11日に起きた東日本大震災の影響により、営業停止を余儀なくされました。そして2012年4月20日、震災を踏まえ、安全対策をより強化し、完全復旧を果たしました。コスモ石油グループは事故ゼロをめざして、現場を支える一人ひとりが高い安全意識を持ち、事故防止技術および体制を整えています。

● 地元のお客様とのつながりを大切に

ここ石巻東SSは住宅地裏の地域密着型です。さらに牡鹿半島から来られるお客様もいて、情の厚い古くからの常連客が多いです。給油はセルフサービスですが、当店の売りである洗車は、今でも昔ながらのフルサービスをしています。アナログ主義で(笑)、お客様との会話も多い。

これからは、地域密着型のSSとして、さらにお客様との絆を深めていき、このエリアでなくてはならない存在にしていきたい。そして、何よりも東日本大震災の経験を忘れずに、普段から災害に備えるとともに、安全で事故のないSSにしていきたいです。それが私の役割であり、毎日の積み重ねが大切だと考えています。



SSの運営を全力でフォローアップ

石巻東SS再開までの道のり

2011 ○ 3月11日 東日本大震災発生

被害状況

キャノピー	一部損傷
建家	がれき流入
計量機	全壊
洗車機・防火塀	敷地外へ流出
サインポール	配線関係破損
土間	隆起陥没



○ 5月28日 仮営業開始

2012 ○ 2月1日 復旧工事開始

災害対応機器等の導入(新設備とその目的)

水害対応型マルチ計量機	水害による一時的な浸水後の給油継続(1基の設置)
緊急用計量機	電源喪失時における地下タンク直上からの給油継続
発電機	電源喪失時における営業継続
避難はしご	冠水時における事務所棟屋根上への避難
LED看板	低消費電力・長寿命による
LED照明	環境負荷・メンテナンスコストの低減



○ 4月20日 完全復旧
写真は現在の石巻東SS全景

震災前以上の実績をめざす

私 は3年前に仙台支社に赴任しました。販売担当としてSSの運営力強化のためのフォローをしています。石巻東SSは、地域のお客様から支持されており、さらに販売力や運営力に優れた、コスモ石油においても非常に重要なSSです。被災後には、地元のお客様が営業再開を求めて直談判に来られるほどSSの地域への密着度は高いです。それは勝然所長の人柄によるところが大きく、従業員からも厚い信頼を得ています。再開については震災の翌月からご要望をいただき、できるだけ早く動きかけたのですが、復興の遅れ、人手不足などで、本格的に着手できたのは翌年の2月でした。それまでの仮営業期間が一番大変だったと思います。今の目標は震災前以上に販売することです。そのために私も全力を注ぐつもりです。



コスモ石油株式会社
仙台支店 販売グループ

内藤 洋平 ○

個人を尊重した 人材育成で視野を広げる

● コスモオイルインターナショナル株式会社 マネージャー 藤本 三奈子

● 女性も活躍する国シンガポール

コスモオイルインターナショナルは、シンガポールに拠点を置くコスモ石油の子会社です。本社の製品部と供給部が、ガソリンや灯油など石油製品の国内生産や輸出入について細かな計画を立て、私たちはそれにしたがって海外の石油会社やトレーダーといった取引先と具体的な売り買いの商談をします。

スタッフは、コスモ石油からの出向者と現地採用者を合わせた8名です。出向者3名のなかで女性は私だけですが、現地採用スタッフの内4名が女性です。シンガポールは働く女性が非常に多いです。また業種を問わず、同年代の女性駐在員の方も多く赴任されており、こちらに来てから社外とのつながりも随分広がったように思います。

● 人と情報が行き交うビジネス最前線

シンガポールは貿易におけるアジアの中心地で、非常に多くの人と情報が集中します。ですから人とのコミュニケーション、信頼関係の構築がとても大事です。そういう人間関係からさまざまな情報を得、時に私たちのビジネスにも大きく影響を与えることもあります。

しかも厳しい競争社会でもありますから、ただ座っているだけでは日本にいる時以上に情報は得られません。こちらから積極的に働きかける必要があるので、日々の人間関係が重要になります。日頃から常にアンテナを上げていなければなりません、情報はタダじゃないという意識も強いです。収集だけではなく、こちらからも情報提供をするというギブアンドテイクの関係です。



左から

◀ マーライオンパーク

◀ シンガポールのビル群

左から

デスクワーク ▶

オフィスでの打ち合わせ ▶





コスモ石油グループは、社員の力が事業活動の原動力と考えています。お客様とのコミュニケーション、社会に求められる製品・サービスを提供する担い手は、すべて一人ひとりの社員です。明るく働きやすい職場づくりを推進し、適性・能力にあった公正公平な評価はもちろんのこと、ワーク・ライフ・バランスに配慮した新しい働き方にも取り組んでいます。

● 社内外への情報発信源をめざして

私は入社以来、まわりから「ラッキーすぎる」と言われるくらい、仕事と上司に恵まれてきました。常に背中を押してもらいながら自分のしたい仕事を続けています。シンガポール勤務も私の希望でした。こちらでは社外の人と会う機会も日本より格段に増え、そのおかげで個人ではなく、会社の代表として接するのだ、という意識を強く持つようになりました。

将来的には、これまでの経験を活かし、会社全体の物流部門を大きく見られるような、視野の広い仕事をしていきたいと考えています。そのためにも今の環境を無駄にせず、もっと勉強と経験を積み、社内外への情報発信源になれば、と思います。



求められる人材

可能性を追求できる人材を育成

シンガポールには世界的にも有数な石油取引のマーケットがあり、多くの石油関係企業が拠点を構え、石油のトレーディングを行っています。藤本さんは豊富な専門知識と高いコミュニケーションスキルに加え人柄の良さで、相対する多くの石油トレーダーや関係企業と信頼関係を築き、活躍しています。

グローバルなビジネスにおいては、異国の習慣や文化、宗教などの価値観を理解し、誠実な行動で信頼関係を構築することが大切です。しっかりした自分の考えを持ち、環境やマーケット変化をタイムリーにキャッチし、ビジネスの可能性をとことん追求する人材が求められます。お互いの立場を理解し、Win-Winのビジネスを成立させるセンスを培うには、現場での経験がもっとも重要と考えます。



シンガポールのオフィス



未然防止と リスクの最小化に努める 土壌環境対応

コスモ石油グループは、環境にやさしい石油製品の開発や提供に取り組む一方で、再生可能エネルギーの導入や生物多様性の保全など、かけがえのない地球環境を次の世代へ残すための活動に力を入れています。

その前提として、調査・管理・点検の徹底により、自らの事業活動における環境負荷、環境リスクを正しく把握し、継続的な改善を図っています。



コスモ石油株式会社
安全環境部 環境技術グループ

高木 裕也

(現 リスクマネジメントユニット CSR環境部 環境技術グループ)

● 土壌汚染の未然防止とリスクの最小化

土壌汚染問題は社会的な関心が高く、特にSSはお客様との直接の接点ですから、そこで発生する土壌汚染は周辺住民の不安や企業の信用問題につながりかねません。そこで2004年8月、環境先進企業をめざして、それまで個別に対処していた土壌環境対応を集中管理するための専門部署として、安全環境部に環境技術グループが新設されました。

私たちのグループの主な業務は、土壌汚染の未然防止と、万が一油分が漏洩した場合の迅速な対応と土壌環境リスクを最小限に留めること。これら両方の視点で、コスモ石油グループ内におけるSS、事業所の設備チェックや土壌調査、土壌改良等の対策を行い、土壌環境の保全に努めています。

● 情報の一元管理で迅速、適正な対処

土壌調査の最大の目的は土壌汚染の定量化です。土壌汚染と言っても油の種類や濃度、土質、地下水の状況などの違いにより、その状態はさまざまです。土壌環境リスクを最小限に抑えるためには、それらの情報を一元管理し、迅速かつ適正な対処をすることが重要になります。

土壌調査の結果、問題があった場合、周辺環境との関係からその影響度を慎重に判断します。その後対策が必要な範囲、工法、対策時期を選定します。2012年度はコスモ石油所有SSの改廃に合わせて、51件の土壌調査を実施しました。昨年までに調査したSSは合計1,007件となり、調査が必要なSSの対応をほぼ完了させています。



▲ 地中レーダーによる埋設調査



▲ ボーリングによる土壌の採取



▲ 採取土壌の検査用ビン詰め



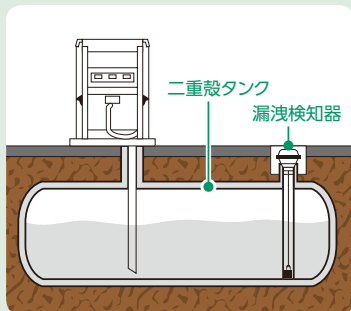
目に見えない不安に対し丁寧に対応

土壌環境対応は、専門的でわかりにくく、また漠然と悪いイメージがあり、そのため、どうしても不安が先行しがちです。あるSSの土壌調査の際、関係者の方が汚染を非常に心配されていましたが、私たちの調査法と対処法を根気よく説明することで、その不安を払拭することができました。人として誠実に耳を傾け、丁寧かつ正確な説明をすることが非常に重要であることを実感しました。

個別の対応だけでなく、情報を一括管理し、蓄積してきた経験を活かしてこのような対応ができることがコスモ石油の強みです。今後も環境先進企業としてコスモ石油への信頼を高めていただくために、真摯な対応を心がけていきたいと思っております。

機器・設備の改善

新設のSSには、油の漏洩を防止する二重殻タンクや、腐食しない樹脂配管など、漏洩リスクの極めて低い機器・設備の導入を進めています。既存SSについてもその特性に合わせ配管材料の更新・強化、電気防食の実施などの設備改善を行っています。



ALAの持つ可能性

ALAの優れた性質を地球環境に活かす

ALAは、(5-AminoLevulinicAcid : 5-アミノレブリン酸)の略称で、動植物の生体内に含まれる天然アミノ酸です。従来がん治療薬などに活用されてきましたが、生産が難しいため非常に高価で、新たな用途開発の妨げにもなっていました。

コスモ石油グループは、1999年に発酵法によるALAの量産技術を開発し、2003年には世界で初めてALAを配合した液体肥料「ペンタキープ」シリーズを発売しました。ALAを肥料に用いることで植物の生育を促し、地球温暖化など気候変動による農作物の収穫減などを防ぐことができる可能性があります。さらにコスモ石油グループは、畜産用飼料、医薬品、化粧品、健康食品などの分野でALAの可能性を追求し、食糧生産の拡大や健康増進といった社会課題に応え、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



液体肥料「ペンタガーデン」シリーズ

新しいラインナップ

2013年3月に、従来の液体肥料シリーズに加え、固形肥料「ペンタガーデンPellet」を発売しました。日陰や寒さに強いALAの動きをそのままに、より素早い効き目の化成肥料にゆっくり持続する効き目の有機質(80%含有)をバランス良く配合した粒状(ペレット)肥料です。日照の不足しがちなベランダ、室内、庭の土作りの力強い味方として、お客様にご好評をいただいています。



コスモ石油グループALA事業の沿革

- 1995 ○ ALAの植物の成長促進効果を発見
- 1999 ○ 発酵法によるALA量産技術を開発
- 2003 ○ ALA配合液体肥料「ペンタキープ」発売
- 2004 ○ コスモ誠和アグリカルチャ株式会社設立(現・コスモALA株式会社)
 - ALA商品の海外展開スタート
- 2006 ○ 家庭園芸向け「ペンタガーデン」発売
- 2013 ○ 「ペンタガーデン」シリーズの固形肥料「ペンタガーデンPellet(ペレット)」(有機入り化成)発売

Chapter

5

清掃活動で貢献 地元への感謝を込めて

○ 坂出コスモ興産株式会社 谷川 香里 / 総務部 総務課 課長 大川 智久

● ボランティアによる清掃活動

坂出製油所では、この地域の清掃活動に2007年から参加しています。会社独自の活動は、春と秋の2回開催しています。また、地元の清掃活動のお手伝いとして奇数月を担当しています。参加者は皆ボランティアで、会社の掲示板の募集に応じた人たちです。

私がこの清掃活動に初めて参加した時に感じたのは、思っていたほど海岸が汚れていないということです。以前は流れてきたペットボトルなどが海岸一面にあったそうですから、綺麗なのはこの活動が続いているからなのだろうと思いました。社員の家族も多く参加しており、イベントのような楽しさもあります。お子さんも一所懸命にごみを拾っていて、私も負けていられないなと思っています。

● 社内コミュニケーションの活性化

この活動には、地域の美化のほかにも、同じ社内でも普段はなかなか顔を合わせない人たちとの交流ができるもうひとつのメリットがあります。清掃活動後にバーベキューをしながら、新しいコミュニケーションが生まれるのも楽しいですね。

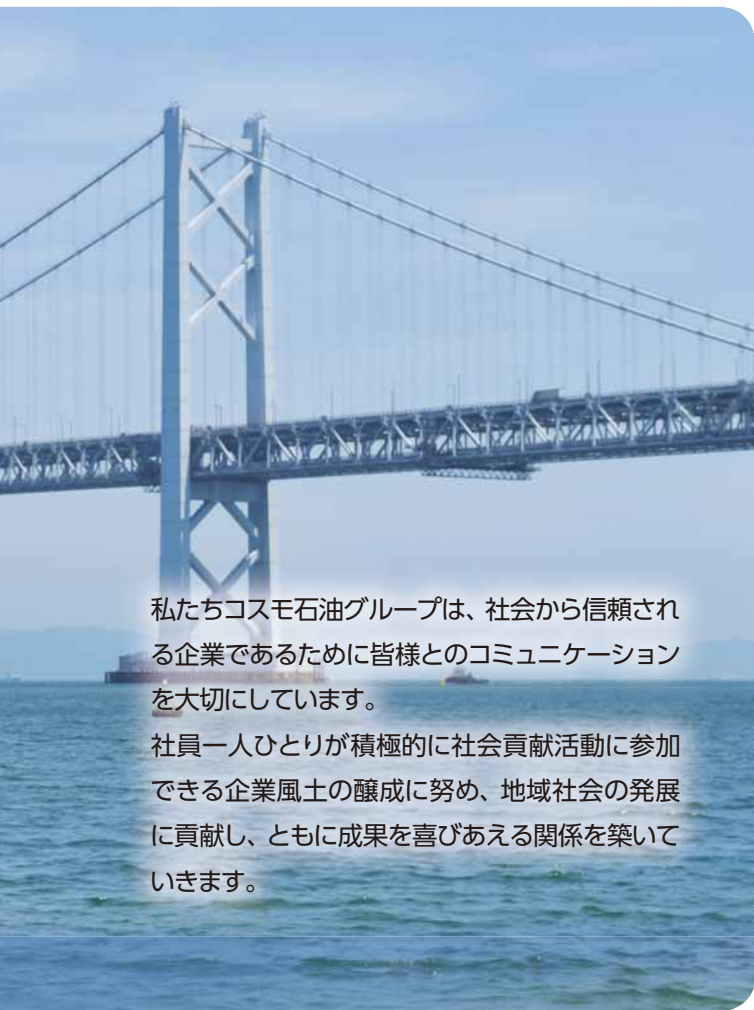
私の地元は香川で、地元企業への就職を希望していました。入社して石油の試験検査業務に従事しながら、学生時代には全く知らなかった石油の世界を知りましたが、こうしたボランティア活動を通して地元へ貢献できるのも、本当に素晴らしいことだと思います。今後もこの活動は続けていきたいですね。(谷川)



社員とその家族の皆様

◀ 海岸の清掃活動
バーベキュー ▶





私たちコスモ石油グループは、社会から信頼される企業であるために皆様とのコミュニケーションを大切にしています。

社員一人ひとりが積極的に社会貢献活動に参加できる企業風土の醸成に努め、地域社会の発展に貢献し、ともに成果を喜びあえる関係を築いていきます。

● これまで、そして今後の感謝を込めて

この海岸に落ちているごみは、地元の人が捨てたものではなく、流れてきたものです。ペットボトル、発泡スチロールなど、落ちているごみの大半は石油化学製品です。であれば、それらを私たちが拾って清掃するのは、当たり前だと考えています。40年間、この地でお世話になってきましたし、製油所ではなくなりますが、今後もオイルターミナルとして地元にはお世話になります。その感謝の気持ちを込めた活動です。また、この活動を通じて社員同士の交流が生まれ、協調性も高まったように思います。(大川)



坂出製油所

2012年8月、コスモ石油は供給体制の再構築のため、坂出製油所の精製機能停止を発表しました。2013年7月の精製機能停止後は、西日本地域への石油製品の安定供給を果たすため、物流拠点機能のオイルターミナルとして事業を継続しています。



地域の安全を守る責任

事故に備える万全の体制づくり

私 たちの防災業務は、製油所の保安・警備、安全管理を24時間体制で行うものです。事故を未然に防ぐ安全管理、万が一起きてしまった時、被害を最小に抑える防災対応のふたつが大きな柱です。

具体的には施設警備というサイト内の警備活動、そして火災発生時の自営消防隊による消火活動というもの。これまで大きなトラブルはありませんが、総合防災訓練は年4回実施しています。また、同じ地区にコンビナートを持つ各社が集まった番の州地区特別防災協議会でも、年1回持ち回りでコンビナート防災訓練を行っています。東日本大震災以来、人々の防災意識が大きく変わりました。南海トラフ大地震も想定しながら、地震への初動体制も大幅に強化するなど、地域の皆様に安心していただけるよう努力していきます。



防災訓練の様子



坂出コスモ興産株式会社
総務部 防災課

課長 尾崎 寿文 ●

信頼される企業であるために 今あるべき姿とは

Chapter

6



○ コスモ石油株式会社 取締役常務執行役員 荻原 宏彦

● 社会の目が社員の意識を高める

荻原 弊社の千葉製油所で起きた東日本大震災時の火災・爆発事故、そして昨年6月のアスファルト漏洩事故で、残念ながら近隣の住民の皆様をはじめ、たくさんの方にご迷惑とご心配をおかけする結果になりました。これを受けて、今年4月には『CSR活動方針～ココロと安全の「満タン活動」～』を定め、まずこの2年間は社会的信頼の回復に注力します。そのために、社員の意識、文化度の向上をどのように定着させていくか、という点について、ぜひご意見をお聞かせください。

橘川 会社として必要な手はすべて打たれているでしょうが、ひとつ重要なのは、大きな評価を見失わないことです。社会がコスモ石油をどう見ているか、そこに自信を持つことが一番必要だと思います。

震災で浮き彫りになったのは、人々の命を救った主なエネルギーはLPガスと石油であったということです。現代社会における石油の重要性がはっきりしたわけです。例えばコスモ石油のSSがあったことで、震災の際に人を救ったエピソードなどはたくさんあると思いますが、そういう話の一つひとつを社員に伝えていくことで、彼らの志気を高め、自信につなげていくことができるのではないのでしょうか。

● リスクを意識して正面から立ち向かう

荻原 日本の石油エネルギー供給を担う企業としての責任、リスクマネジメントについてはどのようにお考えでしょうか。

橘川 原発事故の教訓もありますが、やはり潜在的リスクは大きいということを常に意識する必要があると思います。2010年に起きたBP社のメキシコ湾原油流失事故は、大変なダメージでしたが、ルイジアナに行った時に非常に印象的だったのは、BP社を悪く言う人がほとんどいなかったことです。これは徹底した事後処理と情報開示によるものでしょう。リスクの大きさを認識しながら、そこに正面から立ち向かっていかなければならないということは、まずはっきり浸透させなければいけないでしょうね。

荻原 そうですね。事故を起こさないのが一番ですが、起きる前からの徹底した安全管理と起きた後の対策については、常に緊張感を持たなければいけませんね。一方で、自社の事業継続も大切ですので、策定したBCPIに沿って緊急事態に備えた訓練も行っています。



出荷作業の様子

コスモ石油グループは、エネルギー供給という公益性の高い事業を行う企業として、社会から期待され信頼され続けるために、どのようなことに配慮すべきか。一橋大学大学院商学研究科教授の橘川氏をお招きし、コスモ石油グループのコンプライアンス、リスクマネジメントへの取り組みについてご意見をうかがいました。

(2013年5月)



一橋大学大学院
商学研究科

教授 橘川 武郎氏

● 培ってきた大きな会社の財産

橘川 御社がずっと「ココロも満タンに」とやってきた宣伝広報活動は、確実に社会に対して浸透してきています。単なるマーケティング的なコピーではなく、会社のCSRに対する姿勢を直接表す言葉ですから、それが浸透することは社員も強く意識して業務にあたらないければならない一方で、会社にとって大きな財産であり、社会的な評価につながっていると思います。これは国内だけでなく、海外においても同じことが言えるでしょう。

荻原 そうですね。この言葉を形として伝えたいですね。

橘川 私はぜひコスモ石油グループの社員の方、特に若い方には、アブダビでの御社の勇姿を見てもらいたい。おそらくアブダビのトップの人たちが信用する日本の会社は、コスモ石油ではないかと思います。

荻原 アブダビでは昨年12月に既存の開発権益が30年間の利権更新になり、またヘイル油田という新たな開発権も取得しましたので、信頼関係はより深くなっています。

橘川 原油開発からSSまでのサプライチェーンをすべて持つ石油会社であることを大事にしてもらいたいですね。

関連情報 P10 特集1 さらなる成長へ向けて【製油所の安全・安定操業】

関連情報 P30 重点項目2 誠実な業務遂行

橘川 武郎氏プロフィール

1951年和歌山県生まれ。東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得。青山学院大学助教授、東京大学教授を経て、現在、一橋大学大学院商学研究科教授。

著書に『松永安左衛門』『戦前日本の石油攻防戦』（ミネルヴァ書房）、『東京電力 失敗の本質』（東洋経済新報社）、『電力改革』（講談社）ほか。コスモ石油20年史『飛躍へのかけ橋』などエネルギー業界の年史執筆も数多く手がける。



アブダビ石油株式会社の新利権協定発効

2012年12月、コスモ石油の子会社であるアブダビ石油は、同国で操業している既存3油田の利権更新による生産継続に加え、新たに既発見未開発のヘイル鉱区の利権を取得しました。これはアブダビ石油の40年余りの操業実績や環境技術、生産技術の高さに加え、同国にとって日本が友好的かつ信頼できるパートナーであることが評価されたものと理解しています。

ヘイル鉱区は現在操業中の3油田と同程度の生産規模と見込んでおり、早期の生産開始を成功させ、既存3油田と合わせて、今後30年にわたり安全・安定操業の継続に努めていきます。



ケーキカットの様子



2012年度の取り組み状況

第3次連結中期CSR計画の取り組み実績と課題（2010年度～2012年度）

CSR経営・環境経営の取り組みは、「第3次連結中期CSR計画（2010年度～2012年度）」にもとづき、①CSR推進体制の機能向上、②安全管理の強化、③人権/人事施策の充実、④環境対応策の推進、⑤社会に応えるコミュニケーション活動の推進を5つの重点項目としました。

全体として、定性的な目標に対しては概ね達成し、定量

的な目標に対しては、②安全管理の強化、③人権/人事施策の充実で、一部未達成のものがありません。CSR経営の理念については浸透・定着しつつありますが、今後はそれらの理念にもとづいたCSR活動の定着を強化し、実行・実践を推進していきます。

第3次連結中期CSR計画（2010年度～2012年度）と2012年度の取り組み状況 ⑦

重点項目	テーマ	主な活動施策・目標	2012年度の実績
CSR推進体制の機能向上	実践度向上のための組織体制の強化	CSR推進責任者/担当者の選任および役割の再確認によるグループ全体のCSR推進体制のレベルアップ	・CSR推進責任者・担当者を通じ6委員会の活動内容周知、自部署・会社への展開を実施
	企業行動指針の認識度・理解度のさらなる向上	・定期的な社内研修（企業倫理研修）の継続 ・モニタリング（CSR調査）の実施	・社内研修（企業倫理研修）を2012年10月～2013年2月に実施（3,798名参加） ・2012年11月に実施したCSR調査結果を周知
	社規・マニュアル類に準拠した効率的な業務の推進	・社内インフラの活用などによる業務の平準化・簡素化および情報管理強化	・決裁権限規程細則を7月に改定（確認者・承認者の役割を明記） ・内部者取引防止規程を11月に改定 ・社用印章取扱規程の改定（捺印の押印禁止等を明記）
	危機管理体制の再構築	・全社横断的なリスク洗い出しおよび対策策定の継続 ・教育訓練（BCP）の継続実施	・全社横断的なリスク洗い出しおよび対策策定の見直しを3～4月に実施 ・首都直下型地震および東海・東南海・南海の3連動型地震を想定した教育訓練（BCP）を2013年3月に実施
安全管理の強化（第3次連結中期安全計画） ⇒詳細は、P28を参照	事故削減の定量目標を設定し実績を評価・改善することで安全レベルの向上を図る	<製油所・コスモ山石石油> 事故ゼロの達成・維持（2010年度：不安全不具合*1発生件数の基準年比*2 90%以上削減）	・製造部門：不安全不具合の発生件数が基準年比微減（基準年117件、2012年112件） ・アスファルト漏洩事故の再発防止策を実施
		<その他部門（各事業所/グループ会社）> 労働災害ゼロ/削減、事故・トラブルゼロ/削減など、安全管理活動の維持・発展	・物流部門：労災4件、事故9件（混油5件、海難2件、交通事故1件、漏洩1件） ・販売・その他部門：労災計16件、トラブル6件
人権/人事施策の充実（第3次連結中期人権/人事計画） ⇒詳細は、P32を参照	人権尊重：ハラスメント防止、差別意識の撤廃	人権研修受講率 80%以上	人権研修受講率 87%で達成
	多様性尊重・機会均等：公正な採用を継続	障がい者雇用率の維持向上（法定1.8%以上）	コスモ石油：2.20%で達成
	心身のヘルスケア増進：過重労働の禁止、特定健康診断の実施 職場と家庭の両立支援：育児・介護休職推進、余暇活動支援	長時間勤務者の漸次削減 ・日勤者有休休暇取得率の維持向上（コスモ石油：80%以上、グループ会社：現状改善）	長時間勤務者増で未達成（2011年度446名→2012年度478名） コスモ石油：83.3%で達成、対象会社：18社中9社が改善
環境対応策の推進（第4次連結中期環境計画） ⇒詳細は、P34を参照	事業継続を踏まえた地球温暖化防止への戦略的対応	・2012年度において現在の事業領域（原油生産、原油輸送、精製および製品輸送・貯蔵）における排出量の約3%に相当する22万t-CO ₂ /年以上のCO ₂ 削減（施策実施前との比較。風力発電事業によるCO ₂ 削減寄与分を含む）	・▲27.8万t-CO ₂ 削減/年で達成（千葉製油所の不稼働に伴うCO ₂ 削減は含まず） ・省エネ法・温対法にもとづく温室効果ガス排出量をとりまとめ、報告書を提出
	環境負荷の低減	・通常運転、非定常作業時等における環境課題の抽出と対策の実施 ・産業廃棄物の削減：最終処分率目標の達成（コスモ石油：0.5%未満、対象会社：計5.0%未満） ・内部監査・外部監査の充実による環境管理の徹底 ・土壌環境対応の徹底 ・エコオフィス活動の推進（グループ全体：コピー用紙▲9%、社有車燃料▲6%、オフィス電力▲7% ※2007年度～2009年度の実績平均比） ・グリーン購入の推進	・継続中5件のうち、3件の対策を実施、1件中止、1件未完了 ・最終処分率の目標達成（コスモ石油：0.23%、対象会社：1.98%） ・内外監査、環境巡察を実施 ・各サイトの環境影響に応じた土壌浄化、モニタリング、設備管理を計画通り実施 ・グループ全体で目標達成、コピー用紙は一部で未達成 ・非グリーンサプライヤーのフォローアップ実施
	環境貢献活動の推進	・コスモ石油エコカード基金を通じた環境貢献活動の推進 ・生物多様性の保全	・エコカード基金の全14プロジェクトを実施し、会員参加のエコツアーを開催 ・企業間勉強会における「森づくりガイドライン」編集・政策への参画
社会に応えるコミュニケーション活動の推進	ステークホルダーからの評価を踏まえた効果的なコミュニケーション活動の実現	お客様、地域社会、株主・投資家、国際社会など、さまざまなステークホルダーに対するコミュニケーション活動を継続	・「コスモの森」活動を堺市、松山市で実施 ・堺市、坂出市で「ファミリーコンサート」開催 ・クリスマスカード730枚を12の病院に贈る ・「グリーンキャンペーン」39ヵ所で14,372名

*1 コスモ石油グループでは、石油コンビナート等災害防止法に定める異常現象およびこれにいたらないトラブル・不具合、労働災害などを「不安全不具合」と定義しています。

*2 基準年：2006年9月～2007年8月

CSR活動方針の概要および課題、目標（2013年度～2017年度）

コスモ石油グループは、2013年度からの「第5次連結中期経営計画（2013年度～2017年度）」のスタートに伴い、コスモ石油グループ企業行動指針にもとづいた『CSR活動方針（2013年度～2017年度）～ココロと安全の「満タン活動」～』を策定しました。すべてのコスモグループ社員にCSR経営について身近に感じてもらうために、「連結中期CSR計画」から「CSR活動方針」とし、さらに慣れ親しんでいる「ココロも満タンに」を引用して“ココロと安全の「満タン

活動」というサブタイトルを掲げました。

重点項目については、「第3次連結中期CSR計画」の進捗と反省に鑑みて、5つの重点項目を設定しました。そのなかで、最重点項目を「安全管理施策の徹底」と「誠実な業務遂行」としました。「連結中期経営計画」と「CSR活動方針」は表裏一体をなすものであり、全社員が「連結中期経営計画」の達成に向けて、安全かつ誠実に業務を遂行し、継続して社会に貢献できるコスモ石油グループをめざしていきます。

※ 達成度：A 達成 B 一部達成 C 未達成

2010年度～2012年度の総括	達成度
概ね目標通りに実施し、CSR推進のための組織体制、活動内容は定着	A
不安全事故発生件数の削減90%の目標は未達成	C
その他は前年比削減など概ね目標を達成	
人権研修 80%以上受講達成	B
障がい者雇用率改善	
長時間勤務者の削減未達	
有休取得率改善	A
目標24万t-CO ₂ /年以上を達成	
産業廃棄物目標、電力削減ともに達成	
エコカード基金プロジェクトの継続	
・「コスモの森」活動を千葉、堺製油所、コスモ松山石油で継続中 ・各地で「ファミリーコンサート」開催 ・クリスマスカードを4,834枚、延べ54の病院に贈る ・クリーンキャンペーンを実施（116カ所、45,018名参加）	A

ゴールビジョンと活動テーマ

2017年度のゴールビジョン

信頼に応え、継続して社会に貢献できる
コスモ石油グループとなる

活動テーマ

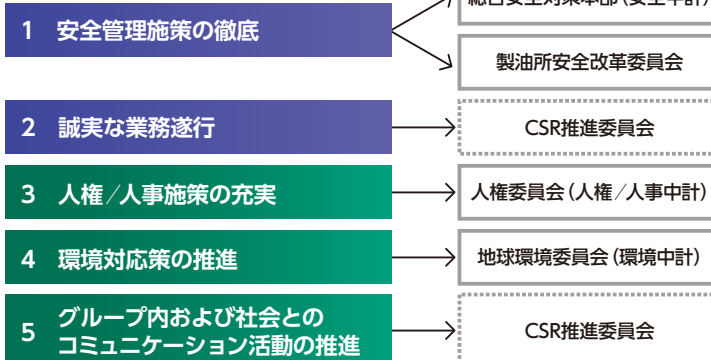


毎年の具体的な活動テーマは、CSR推進委員会にてグループ全体の活動を評価したうえで再設定します

安全とは、ルール（法・社会規範）を守り、安定して事業を継続すること
誠実とは、すべてのステークホルダーに対してその姿勢を示すこと
自発性とは、社員一人ひとりが自ら企業行動指針の理念を実践し業務に取り組むこと

CSR活動方針の重点項目

2013年度～2017年度 CSR活動方針の重点項目



- ゴールビジョンの実現のために活動の重点項目を5項目設定しました。
- 第3次連結中期CSR計画でも重点項目であった「安全管理の強化」を「安全管理施策の徹底」として最重点項目としました。
- 安全な事業継続のためには誠実な業務遂行は欠かせないものとして、「誠実な業務遂行」も最重点項目としました。
- コミュニケーション活動は、社外はもちろんのこと、グループ内でも強化していきます。

安全管理施策の強化

安全への取り組み

第3次連結中期安全計画(2010年度～2012年度)・連結中期安全計画(2013年度～2017年度)

コスモ石油グループでは、社会の皆様から信頼され、安心していただけるよう、事故や労働災害の撲滅をめざし、2005年度より製造、物流、販売の段階ごとに目標を掲げた連結中期安全計画を策定し、取り組みを進めています。「第3次連結中期安全計画(2010年度～2012年度)」の最終年度である2012年度は、全社の安全目標として、「一人

ひとりが役割・責任を自覚し、職場に潜む危険を把握・解決して、ゼロ災害を達成する」を目標に掲げ、安全活動に取り組みました。2013年度からの「連結中期安全計画(2013年度～2017年度)」において、引き続き、安全操業・安定供給体制の実現・維持をめざし、PDCAマネジメントの強化・充実による安全レベルの向上を図っています。

第3次連結中期安全計画の2012年取り組み状況 ㊟

※ 達成度：A 達成 B 一部達成 C 未達成

部門/対象	2012年の目標	2012年の実績	達成度	
製造部門	4製油所およびコスモ松山石油	不安全不具合*1の件数を2012年に基準年比*290%削減(11件以下)	不安全不具合件数: 112件(基準年比4%削減)	C
	コスモ石油ルブリカンツ(潤滑油製造)	・労働災害ゼロ ・事故・トラブルの前年比30%削減	・労働災害: 6件(休業2件、不休業4件) ・事故・トラブルの前年比7%削減(14件)	C
	コスモ石油ガス(LPG貯蔵・配送)	事故・トラブルゼロの継続	事故・トラブル: 0件	A
物流部門	コスモ陸運(陸上輸送)	・混油事故根絶(0件) ・ヒヤリハット提出(目標: 2万件)	・混油事故: 5件 ・ヒヤリハット提出: 2万件以上提出	C
	コスモ海運(海上輸送)	・海上漏洩、座礁事故ゼロの継続 ・機器故障の基準年(2008年)比50%削減	・海上漏洩: 0件、海難事故: 2件 ・機器故障の2008年比72%削減(8件)	C
	油槽所	・労働災害ゼロの継続 ・火災/漏洩事故の年平均2件未満	・労働災害: 0件 ・漏洩事故: 1件 年平均1.3件(2010年～2012年)	A
	原油外航部	活動施策の完遂(顕在化した事故の再発防止、未然防止の対策強化)	・トラブル: 3件 ・2010年のトラブル件数が12件であり、トラブルを大きく削減した(2010年比75%削減)	A
	石油製品貿易部	船舶の動静にかかわる重大事故ゼロ	船舶の動静にかかわる重大事故: 0件	A
販売その他部門	販売部(SS)	SS工事における労働災害ゼロの継続	労働災害: 0件継続(2010年～2012年)	A
	事業開発部(コージェネレーション等)	中期計画期間(2010年～2012年)における年間平均事故数1件以下の達成	事故・トラブル: 0件継続(2010年～2012年)	A
	研究開発部	・年間トラブル発生件数0件 ・ヒヤリハット事例解析の継続	・トラブル: 1件 ・ヒヤリハット事例解析の継続	B
	中央研究所	・労働災害ゼロの継続 ・事故・トラブルの対前年比削減 ・社外事故報告レベルの不安全不具合ゼロ	・労働災害: 3件(休業0件、不休業3件) ・トラブル: 5件 ・社外事故報告レベルの不安全不具合: 0件	B
	コスモエンジニアリング	ゼロ災害の実現(労災の対前年比の確実な削減)	労働災害: 13件(休業4件、不休業9件)(2011年比55%削減)	B

*1 コスモ石油グループでは、石油コンビナート等災害防止法に定める異常現象およびこれにいたらないトラブル・不具合、労働災害などを「不安全不具合」と定義しています。

*2 基準年: 2006年9月～2007年8月

チェンジ21活動

各製油所およびコスモ松山石油(株)では「事故ゼロを達成し、それを維持する」ことを目標に掲げ「チェンジ21活動」と称し、設備の保全レベルのさらなる向上と安全管理体制の強化に取り組んできました。「チェンジ21活動」を推進するにあたり、一定の効果は確認できたものの、新たな課題も浮き彫りとなりました。

今後は新しい管理体制のもと、社長を委員長とした「製油所安全改革委員会」に活動を引き継ぎ、安全管理体制の強化に取り組んでいきます。

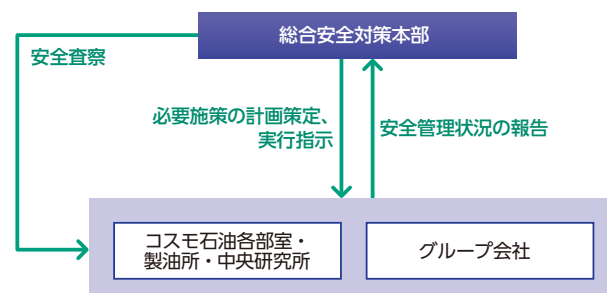


「チェンジ21活動」の様子

安全査察

コスモ石油グループは、グループ横断の安全管理組織である「総合安全対策本部」をコスモ石油本社内に設置しています。「総合安全対策本部」では、安全管理に関する重要事項の調整や審議などを行い、安全管理体制の充実と取り組みの徹底を図っています。また、事業所および事業所を統括する本社部門を対象とした安全査察を毎年実施しています。2012年度は4製油所を含む12事業所・部門を対象に安全査察を実施しました。特に製油所に対する査察では、社内査察員に本社のみでなく他製油所の人員を加えるなど、第三者的視点から、より効果の高い改善・指導を行えるよう工夫しています。

安全管理体制図



BCP総合訓練

2013年3月に、首都直下型地震の発生後に3連動型地震（東海・東南海・南海）が発生したという想定で、6回目となる総合災害訓練およびBCP訓練を実施しました。今回はMCA無線を用いた通信訓練を新たに盛り込みました。引き続き、さまざまな想定で訓練を行い、大規模災害時にも人命尊重を最優先に、石油製品を安定供給できる体制を強化していきます。



「BCP総合訓練」の様子

安全文化構築への取り組み（CS活動*）

製油所では、安全操業・安定供給、競争力強化を達成するため、全職場で少人数のサークル改善活動を実施しています。メンバー全員でテーマを決め、全員の創意と工夫で進めるボトムアップ型の活動で、製油所の代表サークルが活動成果を披露するCS活動全社発表大会を年1回開催しています。コスモ石油ではCS活動を通じて、人材のマネジメント力向上に加え製油所の安全文化の醸成にも取り組んでいます。

* 「コスモ小集団活動および提案活動」の略で、コスモ石油の経営方針を達成するために職場で結成された小集団による自主的な活動



「CS活動全社発表大会」の様子

製油所安全改革委員会の設置

各製油所およびコスモ松山石油（株）は、チェンジ21活動推進委員会にて推進してきた従来の安全管理活動を見直し、2013年度より「PDCAマネジメントの強化・充実により、安全操業・安定供給体制を確立する」ことを目標に掲げ、社長を委員長とする「製油所安全改革委員会」を設置しました。

今後もさらなる安全文化醸成のために、事故を未然に防止する技術や体制の整備だけでなく、現場を支える社員一人ひとりが高い安全意識を持って、設備の保全レベル向上と安全管理体制の強化に取り組んでいきます。



「製油所安全改革委員会」開催の様子

※ 詳しくはP10をご参照ください。

誠実な業務遂行

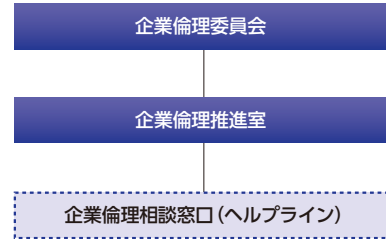
コンプライアンスの推進

企業倫理体制

CSR推進委員会の実行組織として、企業倫理に関する基本方針の決定・推進・実施と確認を行う「企業倫理委員会」、推進役となる「企業倫理推進室」を設置しています。さらに企業倫理上の問題を早期発見すべく、「企業倫理相談窓口（ヘルプライン）」を設けています。

なお、2013年からは、従来の推進体制の一部見直しに取り組んでいます。

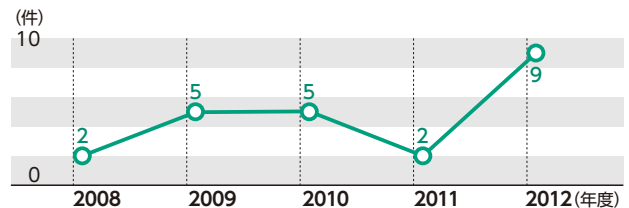
企業倫理推進体制図



企業倫理相談窓口（ヘルプライン）

業務における法令および倫理上の問題を匿名で相談・通報できる仕組みとして、社内には企業倫理推進室内に企業倫理相談窓口、社外には外部専門家へ直接相談できる窓口を設置しています。また、人事部門内には、セクシュアルハラスメントおよびパワーハラスメントに関する相談窓口も設けています。

相談窓口寄せられた相談件数



企業倫理研修会の実施

コスモ石油グループでは、企業倫理への認識を高いレベルで維持するため、グループ社員を対象とした企業倫理研修を毎年実施しています。職務に応じた知識を取得する階層別の研修に加え、グループ会社社長が主催する関連会社ごとのテーマに沿った研修も行っています。

2012年度は、右表のテーマで研修を実施し、情報管理や安全に対する意識向上を図るとともに、法律に関する知識を深めました。

2012年度の企業倫理研修の実績数

研修名	テーマ	受講者数	研修時間
新入社員	コンプライアンスと企業倫理、企業行動指針、会社の意志決定ルール	27名	3～6時間
新任ライン長研修	コンプライアンス遵守、企業倫理醸成のためのライン長としての役割	39名	2時間
事業所研修	【全部門】トップコミットメント(企業倫理への取り組みに対する所信表明)、ヘルプラインの仕組み、情報管理の徹底・情報システムの適正利用 【販売部門】品確法・独占禁止法と個人情報 【技術部門】安全を創る	3,798名	2時間

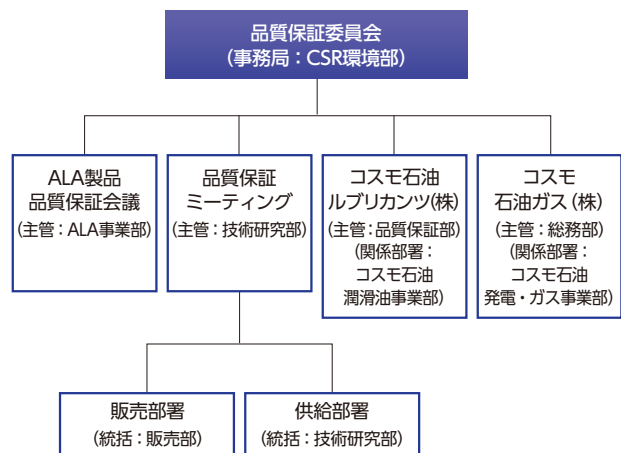
石油製品の信頼確保

コスモ石油本社内に設置した「品質保証委員会」*で策定したグループ共通の品質保証方針のもと、全社一体となった品質保証体制を確立しています。事故・トラブルの撲滅に向けた不具合の未然防止活動を推進し、製品の品質向上と信頼性の確保に取り組みました。

品質不具合撲滅のために、法令遵守はもちろんのこと、定められたルールの遵守、作業前の手順確認と作業後の品質確認の徹底により品質不具合の未然防止に努めました。今後も継続して品質保証活動に取り組んでいきます。

2012年度は、2011年の東日本大震災で被災した千葉製油所の完全復旧に向け、品質不具合を未然に防止するために、装置再稼働前の事前確認を徹底して実施しました。

品質保証委員会の新体制



* 品質保証委員会は、CSR推進委員会の実行組織です。

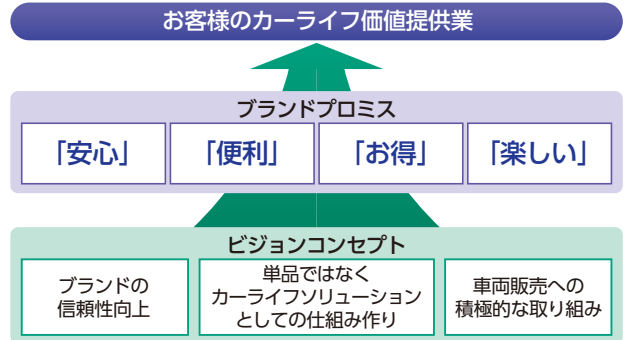
お客様満足への追求

お客様満足の追求と安定供給/カーライフ価値提供業へ

コスモ石油グループ最大の使命は、社会の信頼に応える製品・サービスを、原油調達・精製から物流・販売まで安定的かつ安全・確実にお届けすることであると心に刻み、「“ココロも満タンに”宣言」活動を通じて、お客様に「心地良さ」「安心感」「信頼感」を実感していただくための取り組みを続けています。

2013年度は、燃料油を中心とした石油流通業からトータルカーライフでの価値提供業への変革をめざし、「安心」「便利」「お得」「楽しい」のブランドプロミスのもと、オートリースを中心とした品揃えの一層の充実を図り、お客様の多岐にわたるカーライフニーズに応えていきます。

お客様のカーライフ価値提供



関連情報: “ココロも満タンに”宣言
<http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/mantan/>

「3つの約束」をモニター調査

お客様との3つの約束、SSにおける「心地良さ」「安心感」「信頼感」が各SS店頭で忠実に実践されているかを確認するため、お客様目線でチェックするモニター調査を実施し、お客様の満足度の確認と向上に努めています。2012年度は合計3回の調査を実施し、約1,360のSSがエントリーしました。2013年度はお客様の再来店意向をメインに据え、継続して調査を実施していきます。

※ 第3回の調査は、第1回、第2回の調査結果で90点に満たないなどのSSを対象に実施しています。

「ココロも満タンに”宣言」3つの約束診断結果の推移(2012年度) ㊟

		第1回	第2回	第3回
全体	通常	85.0点	86.4点	83.6点
	夜間	86.1点	87.5点	78.9点
セルフサービスSS	通常	91.9点	92.1点	89.3点
	夜間	84.9点	86.4点	80.1点
フルサービスSS	通常	74.5点	77.2点	80.6点
	夜間	71.4点	75.7点	57.7点
セルフピュア*	通常	93.6点	92.9点	80.5点
	夜間	90.4点	91.1点	90.5点

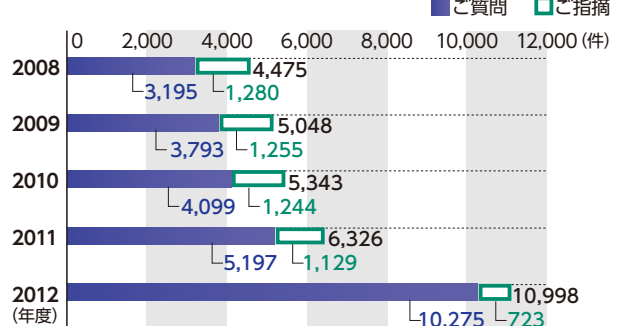
* セルフピュア: ローコスト運営のセルフサービスSS

お客様サポート体制の充実

お客様との双方向コミュニケーションを目的に「コスモ石油カスタマーセンター」を開設し、2010年から電話によるお問い合わせ受付の24時間化を実施しています。2012年度はイオンキャンペーンなどの異業種提携や、ビークルリースの拡大などにより、お問い合わせ件数は大きく伸長している一方、「ご指摘」の件数は減少しています。

関連情報: お問い合わせ
<https://www.cosmo-oil.co.jp/contact/>
 フリーダイヤル 0120-530-372

お問い合わせ件数 ㊟

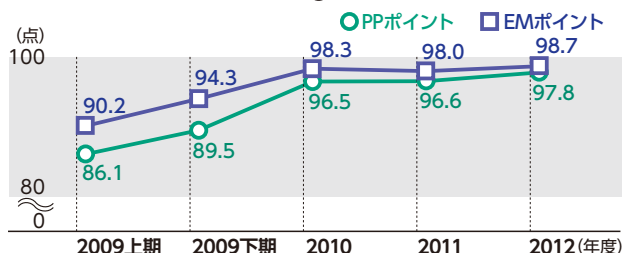


SSにおけるCSRの現状調査

SSを取り巻くさまざまな法令の遵守状況等を確認するため、個人情報保護 (PP) 調査や環境管理 (EM) 調査などのCSR診断を毎年実施し、改善を図っています。2012年度は1,275のSSに調査員が訪問して調査しましたが、その他1,800を超えるSSが自己診断を実施しました。

関連情報: 情報管理
<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/social/customer.html>

PPポイント・EMポイントの推移 ㊟



人権 / 人事施策の充実

人権の尊重

第3次連結中期人権/人事計画(2010年度～2012年度)・連結中期人権/人事計画(2013年度～2017年度)

コスモ石油グループは、人権と人材の多様性を尊重した職場づくりに取り組んでいます。2010年度～2012年度の「第3次連結中期人権/人事計画」では、コスモ石油および主なグループ会社(18社)で取り組む「グループ共通テーマ」と会社ごとの雇用労働者数に応じて取り組みが異なる「個別テーマ」に分類されます。「グループ共通テーマ」は、「人権尊重」「多様性尊重・機会均等」「心身のヘルスケア増

進」「職場と家庭の両立支援」という4テーマで取り組みました。2013年度からは新たに「連結中期人権/人事計画(2013年度～2017年度)」がスタートし、パワハラ、セクハラの撲滅を計画に加えました。「第3次連結中期人権/人事計画」で未達だったテーマを中心に継続して取り組みます。

 **詳細情報：人事計画**
<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/social/employee.html>

第3次連結中期人権/人事計画の2012年度取り組み状況

※ 達成度：A 達成 B 一部達成 C 未達成

テーマ		2012年度の目標	2012年度の実績	目標の達成度
グループ共通テーマ	人権尊重	ハラスメント防止、差別意識の撤廃	人権研修受講率：80%以上	人権研修受講率：87%
	多様性尊重・機会均等	公正な採用を継続	障がい者雇用率の維持向上(法定1.8%以上)対象3社	障がい者雇用率： ・達成 コスモ石油：2.20% ・未達成 COS：1.52%、CEC：1.75%
	心身のヘルスケア増進	過重労働の禁止、特定健康診断の実施	長時間勤務者の漸次削減(350時間以上/年)※総労働時間低減化へ	長時間勤務者：478名(2011年度比+32名)
	職場と家庭の両立支援	育児・介護休職推進、余暇活動支援	有給休暇取得率： ・コスモ石油：80%以上 ・グループ会社：現状改善	有給休暇取得率： ・コスモ石油：83.3% ・グループ会社：対象会社18社中9社が改善
個別テーマ	次世代育成支援推進法への対応	一般事業主行動計画の策定、届け出	対象5社が策定または届け出完了	A

COS：コスモ石油販売、CEC：コスモエンジニアリング

グローバル人材教育

コスモ石油グループ社員は、世界8ヵ国、94名が海外に駐在しています。業務内容としては、資源開発、原油・石油製品の売買取引、プロジェクト(石油化学事業、ALA事業等)に大きく分けられます。「グローバルな総合エネルギー企業」をめざすコスモ石油グループにとって、国内外のさまざまな案件に対応できる人材の育成は急務です。現在も多くの社員が海外駐在をしていますが、これからも多様な経験・スキルを持ったグローバル人材を育成するため、海外事業所に若手・中堅の約3割を派遣し実務を積ませ、いつでも海外で活躍できる人材を増やしていく方針です。

2012年度 国別海外駐在者数 2013年3月31日現在

国	駐在者数
UAE	61
バーレーン	1
カタール	15
中国	2
米国	3
イギリス	1
シンガポール	3
韓国	8

※ 駐在者数は、コスモ石油出向者数にコスモ石油・CEC・CTS・総研のプロパー社員を含みます。

2008年度～2012年度の海外駐在者数の推移

年度	海外駐在者数
2008	77
2009	84
2010	91
2011	89
2012	94

多様性の尊重・機会均等

「公正な雇用の継続」をテーマとし、「障がい者雇用率の維持向上」を目標に取り組んだ結果、2012年度の障がい者雇用率は2.20%と法定雇用率(1.8%以上)を達成しました。2013年度より法改正が実施され、法定雇用率が2.0%に引き上げられましたが、今後も多様な人材がそれぞれの能力を存分に発揮できる職場環境の構築をめざし、施策を展開していくことで、障がい者雇用率の維持向上に努めます。

障がい者雇用(厚生労働省届出値)

	2009年6月	2010年6月	2011年6月	2012年6月	2013年6月
障がい者雇用人数	44名	46名	45名	46名	41名
(内、重度障がい者人数)	22名	25名	23名	23名	21名
障がい者雇用率*	2.0%	2.1%	2.1%	2.3%	2.1%
法定不足人数	0名	0名	0名	0名	0名

* 法定雇用率1.8% (小数点第2位以下は四捨五入)
 ※ コスモ石油単体、いずれも6月1日時点

ワーク・ライフ・バランス

職場と家庭の両立支援

「第3次連結中期人権/人事計画」では、「職場と家庭の両立支援」の重点テーマとして「育児・介護休職推進、余暇活動支援」を定め、あわせて支援を充実させるためのさまざまな制度の整備に力を入れています。誰もが働きやすい明るい職場づくりを進め、社員一人ひとりの価値観・人生観を尊重し、自らの希望する働き方を実現できるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮したさまざまな取り組みを推進しています。

次世代育成支援策として「第5期一般事業主行動計画（2013年度～2014年度）*」を厚生労働省に提出しました。

* 一般事業主行動計画：労働者の子育て支援策や労働条件の整備策について、期間、目標、実施時期を定めた計画

育児休職取得者の声

コスモ石油 CSR環境部
富手 裕子



現在、息子が3歳に到達する年度末までの育児休職取得中です。長期間休職することに不安はありましたが、制度を利用できたのはひとえに上司と先輩方の理解とサポートがあったからこそ。子育てに専念できる時間と環境を与えていただき本当に感謝しています。復職したら今度は、自分が仕事のできる限りの恩返しをしていくとともに、これから出産を迎える社員が安心して育児休職を取得できるようにこの制度の良さを伝えていきたいと思います。

心身のヘルスケア

コスモ石油グループでは特定健康診断に関して、コスモ石油健康保険組合と連携し本格的に取り組んでいます。コスモ石油健康保険組合では、精神科医・心療内科医をはじめとする専門スタッフによる電話健康相談「健康・こころオンライン」を常設し、社員およびその家族のさまざまな相談に対し、即時に責任ある回答ができるよう対応しています。

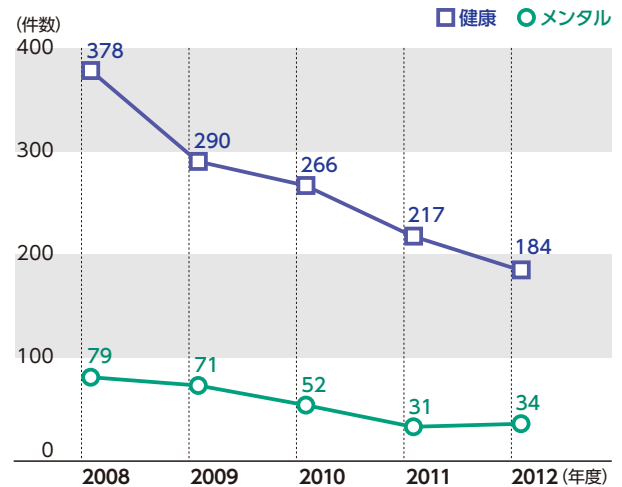
相談内容は幅広く、健康上の不安や薬に関する疑問、心のトラブルなど、日常的な悩みの解消に活用されています。

代表的な相談内容は下記です。

【健康】 薬の知識、胃腸の症状、子どもの発熱、インフルエンザなど

【メンタル】 メンタル不安、子どもの問題、家族の問題、夫婦関係

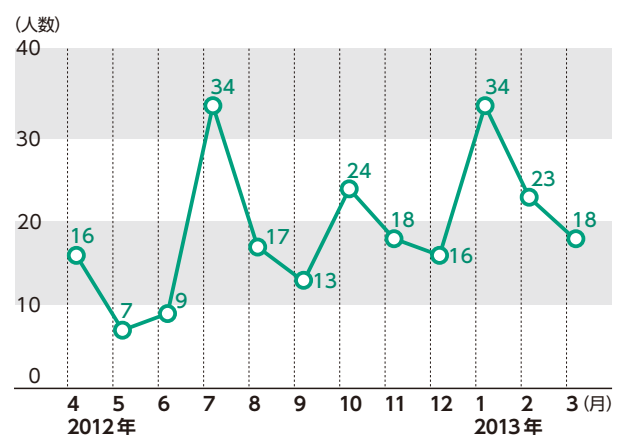
「健康・こころオンライン」相談件数 ㊦



長時間労働の削減

社員のヘルスケア増進のため、「第3次連結中期人権/人事計画」において過重労働の禁止・特定健康診断の実施をテーマとし、「長時間勤務者の漸次削減」に取り組みました。コスモ石油グループでは、時間外労働時間の限度時間を月間、年間、それぞれの期間単位で定めていますが、2012年度実績で、年間の長時間勤務者数は478名（前年度比+32名）と増加しました。製油所部門は前年度より改善しましたが、全体の3分の2を占めています。また、本社部門は新規事業を中心に超過勤務が発生したことが要因です。「連結中期人権/人事計画（2013年度～2017年度）」では年間総労働時間の削減を目標とし、個別事案への改善指導を継続します。

2012年度月間の時間外労働時間が所定時間を超える勤務者数 ㊦



環境対応策の推進

環境への取り組み

第4次連結中期環境計画(2010年度～2012年度)

コスモ石油グループでは、2002年度より環境にスポットをあてた取り組みの強化を開始しました。「第4次連結中期環境計画(2010年度～2012年度)」では、「事業継続を踏まえた地球温暖化防止への戦略的対応」「環境負荷の低

減」「環境貢献活動の推進」の3項目をテーマに各目標を掲げ、概ね達成することができました。

「連結中期環境計画(2013年度～2017年度)」においても、継続して取り組んでいきます。

第4次連結中期環境計画の2012年度取り組み状況

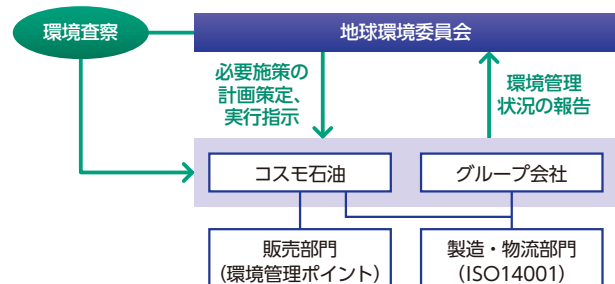
※ 達成度：A 達成 B 一部達成 C 未達成

テーマ		2012年度の目標	2012年度の実績	目標の達成度
事業継続を踏まえた地球温暖化防止への戦略的対応	CO ₂ 削減に向けた取り組み	2012年度目標(施策実施前との比較で▲22万t-CO ₂ /年)に向けた取り組み ①事業領域のCO ₂ 削減(製油所における省エネ、バイオガソリンほか)(▲8.8万t-CO ₂ 見込み) ②風力発電事業の展開(▲14.6万t-CO ₂ 相当) ③将来のCO ₂ 削減に向けた環境技術開発や事業化調査研究	▲約27.8万t-CO ₂ ①▲約11.7万t-CO ₂ ②風力発電事業により、▲16.1万t-CO ₂ ③バイオ燃料開発、充電サービス実証事業を実施	A
	温室効果ガスの排出管理	製造部門、製品輸送・貯蔵部門、オフィスおよび研究部門における定量管理	・同部門における定量管理を継続実施 ・省エネ法・温対法にもとづく温室効果ガス排出量を取りまとめ報告済	A
環境負荷の低減	通常運転、非定常時等における環境課題の抽出と対策の実施	製油所での条例・協定値に対して余裕のない通常運転・非定常時作業についての予防措置の検討	10件の課題を抽出し、予防措置の検討を実施(完了:8件、中止:1件、継続:1件)	C
	産業廃棄物の削減	・最終処分率:(コスモ石油) 0.5%未満(グループ全体) 5.0%未満 ・電子マニフェストの導入推進	・最終処分率:(コスモ石油) 0.23%(グループ全体) 1.98% ・堺、四日市、坂出製油所で電子マニフェストを導入。千葉製油所において、引き続き導入検討	A
	環境管理における内部監査、外部監査の充実	各事業所におけるISO内部監査、ISO外部監査、環境査察の継続実施	・内部監査、外部監査、環境査察を実施 ・各事業所の環境管理委員会の議事録等により、環境管理状況を把握	B
	土壌環境対応の徹底	・(製油所/油槽所/社有SS)環境モニタリングおよび設備管理の継続 ・(社有SS)設備の改廃等に合わせた対応の実施	・社有SS:計画通りに対応実施、調査実施61SS(新規51SS、継続調査10SS)、浄化実施20SS ・製油所:各サイトの環境影響に応じた土壌浄化、モニタリングと設備管理を実施	A
	エコオフィス活動の推進	コスモ石油グループ全体での省エネ・省資源活動の推進	・コピー用紙、社有車燃料、オフィス電力の使用量削減について、グループ全体では目標を達成 ・コピー用紙はグループ会社の一部で未達成	A
グリーン購入の推進	各グループ会社において特定品目(事務用品)の見直し、選定した特定品目の100%購入	特定品目(事務用品)100%達成	A	
環境貢献活動の推進	環境コミュニケーション	エコカード基金を通じた環境貢献活動の推進	・全14プロジェクトの環境貢献活動推進 ・エコカード基金の会員参加のエコツアーを開催	A
	生物多様性の保全	・事業領域における生物多様性の影響度の調査と取り組み方針の策定 ・事業所周辺における里山保全活動の推進 ・エコカード基金の生物多様性保全を目的としてプロジェクト推進	・企業間勉強会における「森づくりガイドライン」編集・制作への参画 ・千葉製油所、堺製油所、コスモ松山石油にて計5回里山保全活動を実施 ・生物多様性を目的としたプロジェクトの支援を実施	A

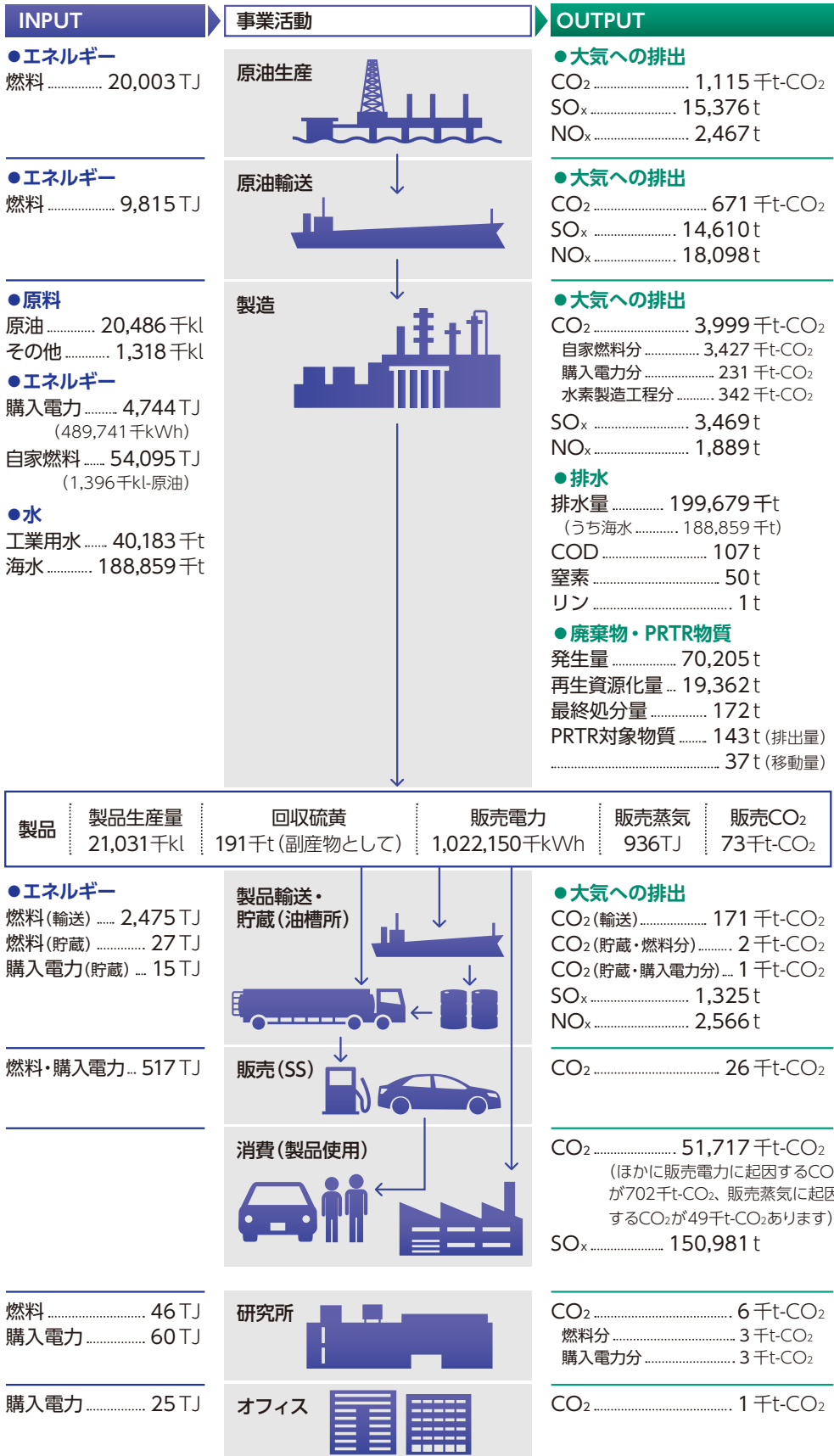
横断的な環境管理体制

コスモ石油グループは、部門横断的な組織「地球環境委員会」を中心とした独自の環境管理体制を構築しています。「地球環境委員会」が連結中期環境計画の立案・実績報告・評価などを実施し、各事業部門にフィードバックすることにより、すべての社員が自発的に環境活動に携わることを促し、かつ環境活動の状況を経営から現場まで共有することを実現しています。

環境管理体制図



事業活動における環境負荷 (2012年度の環境負荷状況) ⑤



○「原油生産」「原油輸送」「製品輸送・貯蔵(油槽所) (SO_x、NO_xのみ)は、(一財)石油エネルギー技術センター(JPEC)の2000年3月「石油製品油種別LCI作成と石油製品環境影響評価」にもとづく推計です。

○「製造」以降のエネルギー消費量は、エネルギー使用の合理化に関する法律(省エネ法)の規定にしたがって算定しています。

○「製造」「製品輸送」のCO₂排出量は、環境省・経済産業省の「温室効果ガス算定・報告マニュアル」にしたがって算定しています。

○「製造」には、コスモ石油製油所、四日市露発電所、コスモ松山石油(株)、コスモ石油ルブリカンツ(株)のデータを含みます。なお、コスモ石油ルブリカンツ(株)の水関連データ、NO_x、SO_xは含まれていません。

○「廃棄物」には、事業活動に伴って発生したもので、有価で売却されたものも含みます。

○販売電力とは、千葉製油所、四日市露発電所およびコスモ松山石油(株)から外部供給した電力のことです。「製造」からのCO₂排出量を差し引いたものとなっています。逆に購入電力分のCO₂は「製造」に含んでいます。

○販売蒸気とは、千葉製油所およびコスモ松山石油(株)から外部供給した蒸気のことです。「製造」からのCO₂排出量は、この販売蒸気分のCO₂排出量を差し引いたものとなっています。

○「販売(SS)」はコスモ石油販売のデータです。

○「消費(製品使用)」の数値の計算方法および前提はweb(詳細情報 環境会計)をご参照ください。

○「消費(製品使用)」のCO₂では、ほかに販売電力、販売蒸気に起因するCO₂を別集計しています。

○「消費(製品使用)」のSO_xは参考値です。製品の硫黄分から算定した潜在SO_x量であり、お客様使用時の脱硫による低減は考慮していませんので、実際のSO_x排出量はこれより低い数値になります。

○ナフサは主に石油化学原料として使用され、直接的にはCO₂、SO_xを排出しませんが「製品使用」のCO₂、SO_xは、ナフサを含めて計算しました。

○「研究所」には、コスモ石油(株)の中央研究所およびコスモ石油ルブリカンツ(株)の商品研究所を含みます。

○「オフィス」には、コスモ石油本社および支店のデータを含みます。

○コスモ石油グループの事業活動におけるScope1は、3,714 千t-CO₂、Scope 2は、321 千t-CO₂です。

詳細情報

事業所別パフォーマンスデータ
<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/site/>

石油ライフサイクルインベントリー(LCI)

<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/lca.html>

環境会計

http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/ev_accounting.html

地球温暖化防止への取り組み

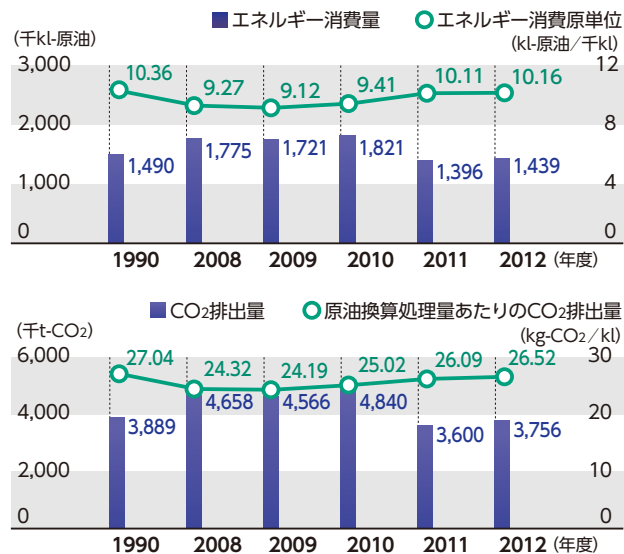
製油所における省エネルギー

コスモ石油グループのCO₂排出量の約6割を占める精製部門では、ハード面(高効率器の導入)、ソフト面(運転効率の改善)の両面から省エネルギーに努めています。

2012年度は、堺製油所高度化装置群の運転条件見直し等の対策がCO₂削減に寄与し、「第4次連結中期環境計画」では、2012年度までの製油所におけるCO₂削減目標を年間34,200トン(原油換算で13,150kl相当)に対し、最終実績で年間42,900トン(原油換算で16,390kl相当)と目標を上回りました。しかしながら、2012年度も千葉製油所が生産機能をほぼ停止したため、通常に生産活動していた2010年度と比較し、製油所のエネルギー消費量とCO₂排出量の総量は減少したものの、再稼働の準備により、エネルギー消費原単位*の数値が悪化しました。安定操業後は、施策の実行と改善策の継続に取り組んでいきます。

* 製油所の総エネルギー消費量を精製技術の複雑度を考慮した原油換算処理量で割った値で、単位は、kl-原油/千klで表します。総エネルギー消費量は、熱や電気などの各種エネルギーの使用量を原油換算し、単位はkl-原油です。

4製油所のエネルギー消費量とCO₂排出量



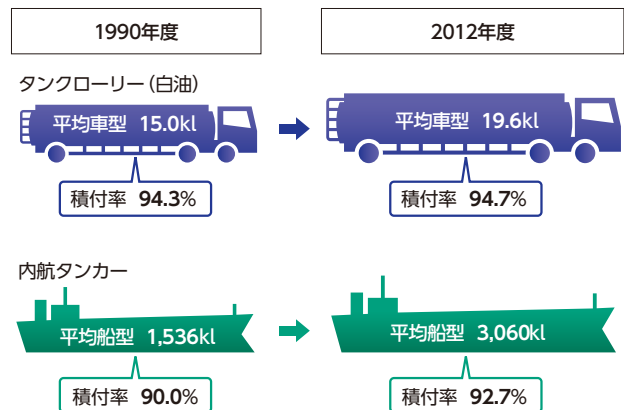
※ 図に示したほかに、触媒再生塔から一酸化二窒素(N₂O)が13千t-CO₂eq発生しています(2012年度)。

輸送部門の省エネルギー

2012年度のコスモ石油の輸送におけるエネルギー消費原単位*(以下消費原単位)は、車両や船舶の大型化と積付率の改善に継続して取り組み、8.77kl/百万トンキロとなり、前年度から0.16kl/百万トンキロ減少しました。総貨物輸送量は6,833百万トンキロと前年度比1.4%の増加となりましたが、鉄道および内航タンカーの比率が増加したため、エネルギー使用量は59,915kl(原油換算)と前年度比0.4%減少し、その結果消費原単位も減少となりました。

タンクローリーによる陸上輸送では、1台あたりの輸送量は17.93kl/回と前年度より0.03kl/回の改善、消費原単位も35.62kl/百万トンキロと前年度より0.65kl/百万トンキロ改善しました。内航タンカーによる海上輸送では、千葉製油所の生産停止の影響もあり、消費原単位は6.63kl/百万トンキロと前年並みとなりました。

平均積付率の推移



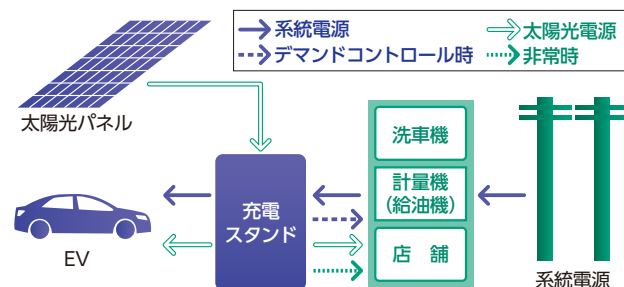
* 輸送におけるエネルギー消費原単位として、エネルギー使用量(原油換算kl)を輸送トンキロ(輸送した貨物の重量(トン)に貨物の輸送距離(km)を乗じたもの)で割った値を採用しています。単位はkl/百万トンキロで表します。

環境配慮型SSの展開

環境と調和したSSづくりの一環として、太陽光パネルの設置や照明設備のLED化に加え、電気自動車(以下、EV)普及に向けたインフラ整備に積極的に取り組み、EV用充電器の設置SSは9店舗となりました。

2012年度は、EV用の蓄電池搭載型急速充電器に太陽光発電設備で発電した電力と夜間の商用電力を蓄え、お客様のEVへの充電サービスとSSへの給電を行う実証事業を開始。同時に停電時の給油機能維持の実証も行います。

蓄電池搭載型急速充電器のシステムフロー図



社会に応えるコミュニケーション活動の推進

社会とともに進める環境活動

「コスモ アースコンシャス アクト」クリーン・キャンペーン

コスモ石油グループは、2001年より開始した地球環境の保護と保全を呼びかけていく活動「コスモ アースコンシャス アクト」の一環として、海・山・川などで自然と親しみながら清掃を行う「クリーン・キャンペーン」を全国展開しており、13年間で、延べ475ヵ所を清掃し、参加者187,111名の方々にご協力いただき、総量4,753,632lのごみを回収しました。毎年夏には「クリーン・キャンペーン in Mt. FUJI」を実施しています。2012年度は富士山の清掃とエコトレッキングを行い、総勢180名で45lのごみ袋440袋分のごみを回収しました。

今後もブログや「Facebook」を活用して情報発信をし、最新情報を掲載して参加者とのコミュニケーションを充実させていきます。



「アースコンシャス アクト」活動の様子

関連情報

コスモ アースコンシャス アクト(公式サイト)
<http://www.tfm.co.jp/earth/>

コスモ アースコンシャス アクト(Facebook)
<http://www.facebook.com/earth.act/>

コスモ石油エコカード基金

コスモ石油エコカード基金では、かけがえのない地球環境を次世代を生きる子どもたちに残すため、カード会員の皆様からのご協力をもとに「ずっと地球で暮らそう」プロジェクトを展開しています。約8万人の会員の皆様に支えられ、2013年度で11年目に突入しました。会員の皆様からお預かりした大切な寄付金を環境問題の解決のために活用し、「環境修復と保全」「次世代育成」をテーマとした環境保全活動を支援していきます。

2012年度は、14のプロジェクトを実施しました。詳しい実施内容については「コスモ石油エコカード基金活動報告書2013」で報告しています。

関連情報：コスモ石油 環境活動
<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/>



「コスモの森」里山保全活動

コスモ石油は、全国の事業所周辺の里山を「コスモの森」として自治体より借り受け、里山を整備・保全し、次世代に残す活動に取り組んでいます。堺製油所とコスモ松山石油(株)では毎年2回「コスモの森」里山保全活動を実施しており、コスモ石油社員とその家族が参加し里山保全活動を行っています。千葉製油所では「コスモの森」を活かし、地元の子どもを対象にした活動を年間を通じて実施しています。



「コスモの森」里山保全活動の様子

さまざまな社会活動

国連グローバル・コンパクトへの参加

コスモ石油グループは、2006年より国連が提唱するグローバル・コンパクトに参加しており、人権・労働・環境・腐敗防止にかかわる10原則を支持することによって、CSR経営を推進する企業姿勢を社会に対しコミットし、CSR活動のさらなる向上をめざしています。

また、国連グローバル・コンパクトの日本におけるローカル・ネットワークである「グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク」にも参加しています。グローバル・コンパクト参加を通じて、事業活動はもとより持続可能な社会の実現に積極的に取り組み、企業と地域社会が協調しながら社会全体を持続的に発展させていくことをめざしています。

国連グローバル・コンパクトの10原則



人権	原則 1：人権擁護の支持と尊重 原則 2：人権侵害への非加担
労働	原則 3：組合結成と団体交渉権の実効化 原則 4：強制労働の排除 原則 5：児童労働の実効的な排除 原則 6：雇用と職業の差別撤廃
環境	原則 7：環境問題の予防的アプローチ 原則 8：環境に対する責任のイニシアティブ 原則 9：環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則 10：強要・賄賂等の腐敗防止の取り組み

諸外国との技術交流を実施

コスモ石油海外技術協力センターは、産油国等と技術協力事業ならびに研修事業を中心とした技術交流を通して友好関係の維持・発展に努め、相手国から高い評価をいただいています。なお、事業実施に際しては、(一財)国際石油交流センター(JCCP)、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)などの助成制度も活用しています。

2012年度の技術協力事業は、オマーンにおいて同国製油所の環境対応に向けた設備および運転改善に関する技術指導を実施、研修事業に関しては、UAE、カタール、オマーン、ベトナム、エクアドル、ミャンマーおよび中国の7カ国10機関に対し、受入13件、派遣2件の研修を実施しました。

受入研修

国名	研修内容	研修回数
UAE	石油精製技術など	2
カタール	製油所装置運転技術 など	6
オマーン	環境管理	1
ベトナム	物流管理システム	1
エクアドル	安全・環境管理、原油スラッジ対策	1
ミャンマー	安全・環境管理	1
中国	安全・環境管理	1
合計		13

派遣研修

国名	研修内容	研修回数
オマーン	製油所管理	1
ベトナム	製油所収益改善、触媒選定	1
合計		2

主な社会貢献活動

コスモ石油は、経営理念のひとつである「企業と社会の調和と共生」にもとづき、「未来の社会をつくる子どもたちの啓発」「地球環境の保全」「文化的社会の構築」をコンセプトとして社会貢献活動に取り組んでいます。

コスモわくわく探検隊の活動については、20周年を迎えたことに対し、(独)自動車事故対策機構より感謝状を受領し、「20年の永きにわたり、延べ980人もも交通遺児をご招待いただきありがとうございます」と感謝の言葉をいただきました。コスモ石油では、これからもさまざまな社会貢献活動を推進していきます。



わくわく探検隊のキャンプでの川遊びの様子

2012年度に実施した社会貢献活動一覧

主催プログラム	活動内容	開催日
第20回コスモわくわく探検隊	交通遺児の小中学生を対象とした自然体験プログラム	2012年8月2日～8月4日(2泊3日)
楽器とあそぼう! コスモファミリーコンサート	事業所のある地域の皆様を対象とした「参加」して楽しめるコンサートプログラム	2012年6月3日(坂出) 2013年3月9日(堺)
コスモ クリスマスカード・プロジェクト2012	入院中の子どもたちにメッセージをそえたクリスマスカードを贈るプロジェクト	2012年11月～12月
Jazz Night@魚籃寺チャリティー・ジャズ・コンサート	入院中の子どもに付きそ家族のための宿泊施設「ファミリーハウス」を支援するチャリティー・コンサート	2012年11月8日
コスモ絵かきっず	児童養護施設で実施するグループ社員による手作りワークショップ	2012年12月8日
献血活動	社員による献血活動	2012年9月5日、2013年2月1日/コスモ石油本社ほか、各事業所にて実施

第三者保証報告



独立保証報告書

2013年8月9日

コスモ石油株式会社
代表取締役社長 森川 桂造 殿

KPMG あずさサステナビリティ株式会社
東京都千代田区大手町1丁目9番

代表取締役社長

齋藤 和彦

目的及び範囲

当社は、コスモ石油株式会社(以下、「会社」という。)からの委嘱に基づき、会社が作成したコーポレートレポート2013(以下、「コーポレートレポート」という。)に対して限定的保証業務を実施した。本保証業務の目的は、コーポレートレポートに記載されている2012年4月1日から2013年3月31日までの対象とした \odot マークの付されている環境・社会パフォーマンス指標(以下、「指標」という。)が以下に示す会社の定める基準に従って作成されているかについて保証手続を実施し、その結論を表明することである。コーポレートレポートの記載内容に対する責任は会社にあり、当社の責任は、限定的保証業務を実施し、実施した手続に基づいて結論を表明することにある。

判断規準

会社は環境省の環境報告ガイドライン2012年版及びGlobal Reporting Initiativeのサステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006等を参考にして定めた指標の算定・報告基準(以下、「会社の定める基準」という。)に基づいてコーポレートレポートを作成しており、当社はこの会社の定める基準を指標についての判断規準としている。

保証手続

当社は、国際監査・保証基準審議会の国際保証業務基準(ISAE)3000「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」(2003年12月改訂)及びサステナビリティ情報審査協会のサステナビリティ情報審査実務指針(2009年12月改訂)に準拠して本保証業務を実施した。本保証業務は限定的保証業務であり、主としてコーポレートレポート上の開示情報の作成に責任を有するもの等に対する質問、分析的手続等の保証手続を通じて実施され、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。

当社の実施した保証手続には以下の手続が含まれる。

- コーポレートレポートの作成・開示方針についての質問
- 会社の定める基準の検討
- 指標に関する算定方法並びに内部統制の整備状況に関する質問
- 集計データに対する分析的手続の実施
- 会社の定める基準に従って指標が把握、集計、開示されているかについて、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施
- リスク分析に基づき選定した四日市製油所における現地往査
- 指標の表示の妥当性に関する検討

結論

上述の保証手続の結果、コーポレートレポートに記載されている指標が、すべての重要な点において、会社の定める基準に従って作成されていないと認められる事項は発見されなかった。

当社及び本保証業務に従事したものと会社との間には、サステナビリティ情報審査協会の倫理規程に規定される利害関係はない。

以上

第三者保証業務を終えて

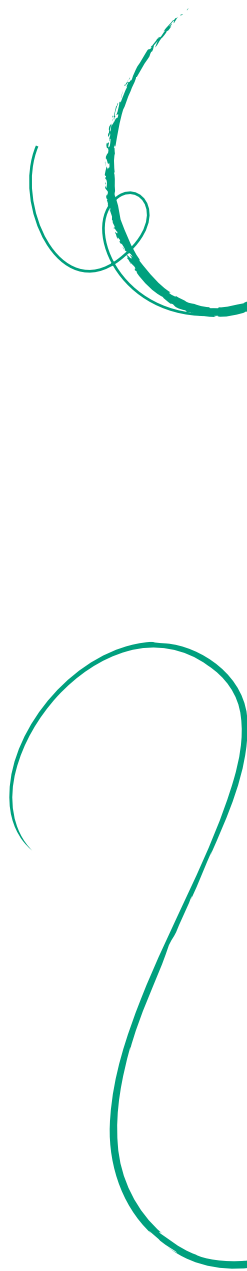
環境パフォーマンス指標に関しては、サービスステーションでの環境負荷が当期から新たに開示され、これにより、国内におけるコスモ石油グループの重要な環境負荷はほぼ網羅的に開示されるようになりました。今後の検討課題としては、コスモ石油グループが直接行う原油生産や原油輸送に伴う環境負荷をどのように開示するかということがあげられると考えます。

社会パフォーマンス指標に関しては、詳細なデータが開示されていますが、大部分の指標の開示対象組織はコスモ石油単体に限定されています。特に重要な社会パフォーマンス指標についてはコスモ石油グループとしての実績が開示できるよう、情報収集の体制や仕組みの構築が期待されます。

世界的なCSR報告の基準となっているGRIによるサステナビリティ・レポーティング・ガイドラインの第4版(G4ガイドライン)が2013年5月に公表され、開示情報の特定プロセスやその結果として特定された重要な側面の開示を求めるなど、今後のCSR報告に重要な影響を与える変更が行われています。G4ガイドラインに準拠するかどうかに関わらず、今後、こうしたCSR報告の新たな動向への対応が求められると考えます。

KPMGあずさサステナビリティ株式会社 赤坂 真一郎





COSMO OIL CO., LTD.

コーポレートレポート2013の制作にあたり、以下の配慮を行っています。



カラーユニバーサルデザイン認証の取得
色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの方に美しく見やすい表示を心がけました。NPO法人カラーユニバーサル機構(CUDO)から認証を取得しています。

Printed in japan